

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	住関連専門店（経営者）	・毎月、売上を伸ばしている部門があるので、その部門に集中することで売上増加に結び付けることができている。
	やや良くなる	衣料品専門店（店員）	・今現在、春物を買って来る客が実際に買うようになると思われる。先物買いをする人が少ないので、現時点で売れない商品でも2～3か月先だと売れるという見込みがある。
		家電量販店（店長）	・新規顧客が増えていることに加えて、2月からは、入学・就職・転職・引っ越しなど、新生活需要が始まる。
		家電量販店（店員）	・訪問販売・イベントなど、客へのアクションを起こすと、ある程度反応があるので期待できる。
		その他レジャー施設（職員）	・スポーツシーズンが開幕し、北海道に本拠地を移すプロ野球チームが本格的に稼働することになる。実際に同球団によって、どれくらい集客できるか、物販がどれくらい売り上げるかは未知数であるが、期待している。
		美容室（経営者）	・気に入ったものであれば、少々高額でも購入する傾向が出てきた。
		設計事務所（所長）	・景気回復の兆しなのかは確信が持てる状況ではないが、ここ2～3年の同じ時期と比べて、動きが活発になっている。
	変わらない	商店街（代表者）	・倒産件数は減少済みであるが、雇用環境は改善されず、高校生の就職内定率も約50%となっている。中小企業の社員も給料は現状維持であれば最高という状態である。年金受給者も防衛意識が大きくなってきている。このような背景では絶対的な消費は伸びない。
		商店街（代表者）	・春物のトレンドはある程度見えてきているが、単品物中心であり、単価的に取れるかどうか何とも言えない。
		百貨店（販売促進担当）	・前年の市内の百貨店売上高は、新規店舗が参入したにも関わらず前々年並みにとどまり、市場は拡大していない状況からみても、3月以降も伸長する見方はできない。
		スーパー（店長）	・公共事業の実績が3割も落ち込んでいる。また新車の購入も2割も落ち込んでいるという話も聞こえているので、今後ますます不景気感が強くなる。
		スーパー（店長）	・依然として客単価は落ち込んでいるが、それを来客数の微増で食い止めている現状である。昨年9月以降、来客数は12月を除いて前年比102%と微増ではあるが伸びている。
		コンビニ（エリア担当）	・競合店の増加、酒類販売店の増加、公共工事の減少と良い要素がないので、消費も減少を続ける。
		コンビニ（店長）	・オフィス街の立地なのでサラリーマン・OLが客層の大半を占めている。もう少し給料が自由に余裕を持って使えるようにならないと買物点数の買い控えの状況はずっと変わらない。
家電量販店（地区統括部長）		・今後、決算セール・シングル需要と期待できる販促策があるため、積極的に需要喚起を図ることにより実績確保をねらうことができる。	
乗用車販売店（従業員）		・昨年と比べても来客数が減り、厳しい状況にある。	
住関連専門店（営業担当）	・BSEに加え、鳥インフルエンザなど、食に対する不安が拡大している。特に1～2月は小売業の端境期でもあり、食を中心に消費が落ち込み、景気回復の足を引っ張る恐れがある。		
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・売上が安定し出しはいるが、売上に占める顧客含有率が依然として高く、一般浮動客の割合はまだ低い。		
旅行代理店（従業員）	・復調の兆しが見えてきた海外旅行であるが、今後、SARSや鳥インフルエンザの影響が懸念されるため、やはり先行きが不透明である。		
旅行代理店（従業員）	・海外旅行が回復するかと期待しているが、今度はアジアで鳥インフルエンザ騒動が勃発し、マイナス要因として働く可能性がある。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	スーパー（企画担当）	・ B S E や鳥インフルエンザの問題が、商品の部分的な、あるいは一時的な現象であったとしても、全体の消費意欲に与えるマイナスの影響は徐々に大きくなることが予想される。
		コンビニ（エリア担当）	・ 今後、入学シーズンを控え、ボーナスなどの可処分所得の減少が直接、消費に影響する。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・ S A R S ・鳥インフルエンザなどの流行により、国内外の移動が減少し、ガソリン需要が減少する。
		高級レストラン（スタッフ）	・ 行政関係者の利用がめっきり減少しており、3月の年度末や4月の年度始めの予約状況が悪い。
		一般レストラン（スタッフ）	・ 同じフロアで営業している全国チェーンのレストランが2月で撤退することが決まるなど、外食産業は厳しい状態が続いているが、B S E ・鳥インフルエンザが追い討ちをかけるように問題化し、ますます売上が減少することが予想される。
		旅行代理店（従業員）	・ 雪害や航空機トラブルによる欠航、鳥インフルエンザの流行などで旅行熱が冷えこむ。旅行申込みも出発間際になっており、明るい材料を探すことが難しい。人員と販売額の前年比も、週を重ねるごとに低下している。
	悪くなる	スーパー（店長）	・ 客単価の低下が、前年実績未達成の最大要因となっているように、客の低単価商品へのシフトなど、シビアな商品選択や、必要最小限の購入姿勢は今後も継続する。
		コンビニ（エリア担当）	・ 12月以降、来客数の減少に加えて、買上点数の減少傾向が強まっている。
		観光型ホテル（経営者）	・ 大手旅行代理店との連携強化、地元の新聞による広告など、営業展開しているが奏功していない。一方、消費単価でも厳しい状況にある。宿泊単価は下げ止まった状態にあるようだが、航空運賃の低下があまりなく旅行代金も硬直化している。付帯収入は、地元客も財布のひもが厳しく、良くなるような材料は一つもない。
		旅行代理店（従業員）	・ S A R S に加えて、鳥インフルエンザなど、旅行マインドを低下させる事態が続いている。
		タクシー運転手	・ 規制緩和後、新規参入と既存事業者の増車でタクシーの台数が約1割増えていることと、個人タクシーが来月新たに約150台許可されることになり、タクシーはますます供給過剰となって競争が激しくなり、一台当たりの売上が大幅に減少していくと思われる。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・ 米国における B S E の発生が、今後、水産物に対してはやや追い風となると想像される。
		輸送業（営業担当）	・ 紙パルプや飼料メーカーの設備投資の効果が持てる。また、外貿コンテナの取り扱いも順調に伸びる模様である。
		その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	・ 室蘭では大型プラントの製作や、高炉の安全対策に関する仕事が動き出し、下請会社は見積作業や仕事の準備にかかり出した。少なくとも夏頃までは地元業者が忙しくなる。
		その他企業〔コンベンション担当〕（従業員）	・ 新規施設の開業がある。
	変わらない	輸送業（支店長）	・ 取引先及び同業者の中でも、輸出入を中心とした企業は上昇傾向を維持しているが、国内、特に道内物流を中心とした企業は荷物の動きが相変わらず減少しており、低調に推移する。
		通信業（営業担当）	・ コスト削減のための一時的な投資は増えているが、好況感は見られない。
	やや悪くなる	その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）	・ 4月以降の受注見通しがかなり厳しそうな感じがする。
悪くなる	-	-	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・ 企業の新体制が始まる新年度募集に加えて、大手スーパーの進出があり、求人関係においても好影響を与えている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・ 増員を含めた新規求人数の増加がそれほど見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人数全体としては増加しているが、増加しているのが特定の業種となっている。減少している業種も、昨年大型複合商業施設のオープンに伴って一時的な求人の増加の反動など、個別の業種によって様々な要因が考えられ、雇用環境が良くなると判断するのは難しい。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・建設関係や土木関係の衰退と小規模の飲食店や販売サービス業の乱立で、スキルによるミスマッチも含め、多少ひずみを伴いながらも労働市場はお互いに相殺されている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・十勝は道内の中では元気が良いと言われているが、農業以外ではそれほど活気を呈している企業は少ない。求人広告は、この3か月前年を下回っており、この傾向は続く予測される。
		職業安定所（職員）	・大手スーパーの進出が今後予定されているが、他のスーパーへの影響も懸念される。
		職業安定所（職員）	・増加した求人の募集理由は、欠員補充が多く増員は少ない。
	やや悪くなる		
	悪くなる		

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	一般小売店〔書籍〕（経営者）	・入学シーズンの繁忙期に入る。2万円弱の電子辞書の販売で、売上の上積みも期待している。
		コンビニ（エリア担当）	・酒の自由化により、新たに酒を販売できる店舗が増えており、期待できる。
		衣料品専門店（店長）	・成人式需要同様にフレッシュ需要が分散化傾向にあり、友人同士での口コミでの来店が増えており、春物立ち上げへの期待が持てる。
		乗用車販売店（経営者）	・3月までは7年前の消費税率アップによる駆け込み需要のボリュームゾーンがある。その反動減が予想される4月以降も各社新型車ラッシュで、ある程度盛り上がりがある。
		住関連専門店（経営者）	・今月も企画を展開しているが、この企画は不発になっている。しかし自然増が後押ししており、少し良くなっている。
		観光型旅館（経営者）	・1～2月は厳しいが、3～4月と予約が先行している。大型団体が動く時期でもあり、確実な増収を期待している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・年度切り替えの時期であり、入学祝いや歓送迎会などのイベントに合わせた催しが増える時期であり、景気が良いわけではないが、昨年よりはやや良くなると感じている。
		住宅販売会社（経営者）	・展示場来場者は、ますますである。年内実施されるローン減税延長の効果が徐々に出てきて、今よりは良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・市内では初めての大型マンションの供給を開始する。問い合わせ件数も多く、多少の期待を込め、やや良くなる。
変わらない		商店街（代表者）	・ひと頃よりは明るさを感じるが、消費そのものは、例えば薄型テレビやデジタルカメラなど、偏ったものであり、楽観視できる状況ではない。
		商店街（代表者）	・景況感にほのかな日差しが差し込む等の報道があるが、商店街全体、特に中小零細店においては依然厳しさが払拭されていないのが実情である。
		商店街（代表者）	・4月からの消費税総額表示や、扶養家族に対する増税、年金不安等将来に向かっての不透明な状況にある関係で、慎重な消費行動が続くと思われ、明るい話題が無いことから、あまり変わらない。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・使う時は使いたいという人が多く、高級ブランドのカタログ注文という動きが定着しつつある。
			・地元の客だけを相手にしても限界がある。観光ボランティアガイドに参加しているが海外からの誘客はまだまだ成果が出ていないというのが現状である。
		百貨店（売場主任）	・昨年のイラク戦争のような特殊要因が無い限り、一般消費者の生活パターンは今より引締め傾向にはならない。緊縮生活パターンに慣れてきており、これ以上の悪化は考えられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・売場には一部新商品も入荷しており、春の提案を前面に出しているが、客の反応は今一つである。 ・常連客は確実に来店しており、モチベーション需要に期待している。ヒット商品や話題の商品などの話題をいち早くキャッチし、売場提案していく必要がある。
		百貨店（企画担当）	・3店あった百貨店が2店になったが、1店減っても売上に変化がない状態が数か月続いており、今後も変わらない。
		百貨店（広報担当）	・一部製造業等で回復の動きがあるように報じられているが、個人消費は未だ回復基調には無い。外的要因となるが年金問題や消費税、外交等の不安が払拭されないと個人消費は元来イメージ消費の要素が強いため、改善されない。
		百貨店（販促担当）	・円高基調の傾向や、SARS、鳥インフルエンザの問題などが解決しておらず、春のヒット商品が少ないという懸念材料はあるが、バレンタインや3月人形などの歳時記の当たりが良いので、ここでカバーしていく。
		スーパー（経営者）	・景気全体としては明るい印象であるが、小売業では大型店がどんどん出店しており、競争で価格が下がり、売上が伸びない状況である。
		スーパー（店長）	・これからの時期は各社で決算になるため、前年並みの売上確保のための価格ディスカウントが強まる。今後も一品単価の下落が続き、売上の大きな変動はない。
		スーパー（企画担当）	・昨年来実施してきた来客数と売上の拡大作戦が一巡し客もそれに慣れてきており、競争激化に伴う価格低下の状況に変わりは無い。
		コンビニ（エリア担当）	・基本的に日常的な商品を販売しているため、特別高単価の商品が多く出るということは今後も考えにくい。日常的なものであるが故に増税などがあれば財布のひもは締まる。景気は上向いていると言うが、現場では感じられない。
		衣料品専門店（総務担当）	・取引先との商談の内容や、新卒者の就職率が低いことなどから、フレッシュ需要が見込めずこのままで推移する。
		乗用車販売店（経営者）	・客の様子や販売状況、現場第一線の報告などから、現状の厳しさがまだまだ続きそうである。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	・2～3か月後は、消費税表示関係の法改正前後となるため、予測がつかない。売上に変動は無いと思うが、手間がかかるということで悪い。4月以降の新しい体制に期待している。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・客の信用状況が悪い。土木建設需要が最悪である。雇用状況が悪い等といった要素が重なり、地方経済が冷え込んでいる。新年度予算が執行されるまで低迷が続く。 ・昨年度の農家の収入が冷夏の影響で少なく、金回りが悪い。一部の好景気が言われる業種がこちらの地方にはほとんどないためにごく一部の工場のみが稼働率が上がっているだけで、全体的に景気回復には影響がない状況が続く。
		高級レストラン（支配人）	・宿泊予約の前年同日比はほぼ横ばいである。 ・宴会予約の前年同日比は、婚礼予約件数が多少苦戦しているため、今後とも苦戦が考えられる。 ・レストランは近隣百貨店の開店等の外部要因により、好調に推移する。 ・惣菜販売も新規販売店も順調で、既存店と合わせてほぼ横ばいで推移する。
		一般レストラン（経営者）	・2～3か月先の予約状況は、さほど今と変わらない状況が続くと言わざるを得ない。巷では景気が回復しているというが、個人消費の中でもレストランに関しては極めて厳しい状況である。
		一般レストラン（経営者）	・客の低価格指向が依然強く、競合他社の相次ぐ出店により悪いまま変わらない。
		一般レストラン（スタッフ）	・全体的には良くなるような気がしているが、外食産業についてはBSEや鳥インフルエンザなど良くないことがあるため、差し引き変わらない。
		観光型ホテル（経営者）	・現在時における以降3か月の入込みは例年並みである。しかし宿泊料金については客の減少で競争が厳しくダンピングが止まらない。また相変わらず家族連れの比重が高く、館内その他の消費が低く売上が伸びない。
		通信会社（営業担当）	・企業の総務担当と話をすると、IP電話への関心が高く反応もあるが、導入コストがかかるというのが分かった途端に引いてしまう。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	スーパー（経営者）	・客単価の下落と、買い控えがますます広がる。春になって新商品が出回る時期に、それ以前の商品の処分競争がますます激しくなり、本当の春というより初夏になるまでは景気が落ち込む。
		スーパー（店長）	・BSE問題や鳥インフルエンザ問題等、立て続けに輸入肉への不安が続いている。肉全体の価格高騰が消費を抑える可能性がある。また卵の日付改ざん問題もあり、食への信頼感が薄れている。
		スーパー（総務担当）	・当県では、雪が正月までほとんど無かったため除雪などの冬の経済が停滞し、企業収益を圧迫し、給料にも影響する。それが買物に影響する。 ・円高により更に値段が下がるという懸念材料もある。
		家電量販店（店長）	・上向いていた来客数が、ここに来て陰りが出てきており、単価は依然として低下傾向にあるため、これからは多少悪くなる。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・4月に始まる消費税の総額表示の影響が大きく、この時期に消費マインドはかなり落ち込む。少し景気が良くなると必ずこうした水を差すような政策を実施することに憤りを感じると共に、今後もこうしたことが続くのかと思うと呆れてしまう。特に政策の実施にあたっては、景気浮揚の足かせとなるような悪政はやめてもらいたい。
		観光型旅館（経営者）	・休日前日や連休に客が集中する傾向がますます強くなっている。平日の予約は1週間前でも入っておらず、前日当日でやや客は入る状況である。客の話では宿泊から、日帰り入浴や近場でのレジャーにシフトしているということで、今後宿泊業はますます厳しくなる。
		都市型ホテル（経営者）	・先日、婚礼の受注イベントを行ったが、実績は今年の60%程度に止まっている。一番大きな原因は、複数の同業社の新規参入と競争相手の積極的な設備投資である。受注産業であるホテル業界は、新規参入組への対策と、顧客ニーズを掴む戦略及び効果的な設備投資を展開する必要があり、それを実行しないと業界のシェア争いにも残れなくなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・客室、レストラン、宴会の薄利多売によるキャッシュフロー重視の経営は今後も継続するが、ここに来て牛肉や鶏肉の仕入れ価格高騰により、一層困難になる。
		タクシー運転手	・客数が増える見込みがない現在で、今後タクシー台数が増える状況にある。新規参入が2～3社あるということで、だいぶ前から乗務員の生活が成り立たないような状態が続いている。
		通信会社（営業担当）	・インターネット以外の部分についても、単価の下落が波及していく。
テーマパーク（職員）	・2月の予約状況は、昨年対比で70%という状況で、これから先とても不安である。		
	悪くなる	スーパー（経営者）	・景気は緩やかに回復といった指針が出ているが、小売業特に個人消費については、そういった状況になるのはまだまだ先になる。客数は緩やかに回復しつつあるが、商品の平均単価の下落や買上個数の減少に歯止めが掛かっておらず、これが続く限りは景気は決して好転せず、むしろ悪化に向かう。景気回復には個人消費の回復が重要な鍵を握っている。
		スーパー（店長）	・3か月先は、2km商圏内に大型食品スーパーが開店する。売上、客数共に商圏が重なるため10%以上の影響が出る。
		コンビニ（店長）	・100円ショップの市内出店が進めば、消費者が価格相応の商品ということに気付くまでは短期的にでも流れるため、デフレはますます進む。
		タクシー運転手	・他社より運賃を大きく引き下げたタクシー会社が、無許可営業であったことが発覚した。今運転手は固定給が無く、全て歩合である。経営側はいいかもしれないが、我々運転手はひどいばかりであり、入る人はいなくて辞めていく人ばかりである。こうした状況はもう少し続く。
企業動向関連	良くなる やや良くなる	輸送業（従業員）	・航空や海運の物流各社は、荷主の要望を取り入れ、本格的にロジスティックに取り組み始め、新しい商品を提供しており、その効果が期待できる。
		公認会計士	・従来は低調であった注文が、12月に入ってから増え始め、売上が一昨年の10月以来久しぶりに予算をオーバーしており、今後もこの状態が続く見込みである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	その他企業〔管理業〕 (従業員)	・今後も、液晶テレビや新型携帯電話などまだまだ好調が続くと見込まれ、半導体関連業界はしばらくは良い状態が続く。
		食料品製造業(経理担当)	・3～4月は最需要期であるが、業界をけん引するような新製品が無く、前年並みに、どちらかという低位で安定して推移する。
		電気機械器具製造業 (営業担当)	・周囲で退職勧奨年齢の幅、及び人数を増やすという動きをしている会社が増えており、変わらないかもしくは悪くなる。
		電気機械器具製造業 (総務担当)	・景気が上向いているかは判断し難いが、製品需要は依然として逼迫が続いている。
		電気機械器具製造業 (企画担当)	・当社の事業エリアは今回の景気回復に連動しにくい状況のため、外部の景気回復感が事業として実感できない。
	やや悪くなる	その他企業〔企画業〕 (経営者)	・金融機関における住宅ローンの貸し出しがもっと活発になれば、景気の上昇につながると思うが、まだまだ年収に対する査定が厳しく、貸し渋りの状態であるため、変わらない。
		一般機械器具製造業 (経理担当)	・為替が、現状の円高水準で推移すれば、輸出環境が更に悪化し、収益が大幅に減少する。 ・自動車部品で、一部メーカーの車両販売に陰りが出ていることの影響が出ている。 ・携帯電話部品の売上がこのところ減少しており、これが当面続く見通しである。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・年度末を控え3月までは仕事は入っているが、4月以降は全く見えない状況で、前倒しの影響が顕著に出ている。他社の状況では、半導体設備の元気が良く、一年先まで見えるという状況である。
	悪くなる	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕(経営者)	・依然、焼酎人気は衰えを見せず、日本酒のシェアは侵食され続ける。
		農林水産業(従業者)	・冬であり、農家は無収入であるため、消費は自粛ムードである。その関係で商店街も全く活気が無く、我が家でも生産資材の購入をしない。
雇用 関連	良くなる やや良くなる	人材派遣会社(社員)	・沿岸地域でも工場の増設があり来期に増員が見込まれ、県南においても大手タイヤメーカーの工場では増産計画があり増員が予定されており、人員の供給が間に合わないほど忙しくなる。
		人材派遣会社(社員)	・特にデジタル家電が好調な製造業を中心に、オーダーのニーズが高まっており、先々明るい。
	変わらない	職業安定所(職員)	・サービス業や製造業の中小企業で、求人意欲が高くなっており、求人倍率が上昇している。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	・3月の派遣法改正に伴い、各企業での求人の形態が変わると考えられる。全体的には、雇用形態が変わるということ、景気を左右するというものではない。
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・地元の車ディーラー関連を中心に、求人数が多少増えている。流通もここに来て底打ち感が出てきつつあるので、多少なりとも上向き傾向にある。しかし東京からの支店対応の求人オーダーは減少のままであり、上向き気配がない。
		職業安定所(職員)	・建設業、食品製造業、卸小売、飲食店などの企業は、公共工事の減少や、BSE、鳥インフルエンザなどにより先行きに懸念を持っており、厳しい見方を変えていない。
	やや悪くなる	職業安定所(職員)	・求人の動きが、産業により、また月によりばらつきがあり安定していない。雇用の回復には、求人求職のミスマッチ解消が課題である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	アウトソーシング企業 (社員)	・今後も、細かい仕事が増え、料金をまけるという声が多く、人件費割合が高い当社の仕事の利益率が低下し続ける。 ・市町村合併により、全体的な景気は悪くなり、大企業主義となり、中小は悪くなるのがこれからの時代である。

3. 北関東(地域別調査機関:(財)日本経済研究所)

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	その他専門店〔携帯電話〕(従業員)	・例年、合格発表前後に高校進学者の携帯電話需要が急激に増加し、3月は1年で最も需要のある月となるので、良くなる。
	やや良くなる	百貨店(販売促進担当)	・競合店の閉鎖による影響で、やや良くなる。
		コンビニ(店長)	・春に大きな祭りがあり、段々準備で慌しくなっている。関連グッズなども出始めているので、3か月後は上向く。
		家電量販店(店長)	・家電業界は、今後地上デジタル放送の本格稼働、アテネオリンピックによる大きな需要を控えているので、数字的にも良くなっていく。
		乗用車販売店(営業担当)	・新規ユーザーからの問い合わせが目立っており、短い期間で商談から契約まで運ぶようになってきているので、今後はやや良くなる。
		住宅販売会社(経営者)	・現場見学会への来客数が増加している。家を建てる予定の人が増えているということである。
	変わらない	商店街(代表者)	・好条件の駅前商店街でも、6か月以上入店者がいない空き店舗があるので、今後良くなるとは思えない。
		一般小売店〔精肉〕(経営者)	・BSE、鳥インフルエンザと、業界への負の要素が大き。緩やかな回復も見込めないで現状維持である。
		スーパー(総務担当)	・ここ数年の流れとして、食品はある程度安定しているが衣料品は天候による格差が大き。店舗全体では若干下降気味の現状維持である。これから春の商戦を迎えるが、起爆剤となるような要素もないので変わらない。
		スーパー(統括)	・携帯電話、デジカメ、DVD、液晶、プラズマテレビ等によりIT関連企業が好調であり、県内経済全般としては回復基調にあるものの、農業所得の減少やボーナスの減少、社会保険料の増額等、消費マインドに与える負の要素が多く、消費者の財布のひもは固くなる一方である。
		コンビニ(店長)	・最近の客の様子は、特に欲しい物がないのでとりあえず必要な物だけを購入するという傾向にあるので、景気全体を底上げするような購買増は見込めない。
		衣料品専門店(店長)	・春物商品の実需時期であるが、売上が天候次第で左右するので予測が難しい。銀行の国有化など、社会的不安の影響から、購買客数の増加や客単価の下げ止まりは期待できない。
		衣料品専門店(販売担当)	・4月には500m先に屋台村がオープンする予定であり、期待しているが、その前に年度末を控えており、破たんした地元銀行の影響が懸念されるため、景気は悪いままで推移する。
		乗用車販売店(営業担当)	・決算期にもかかわらず、来客数が少なく、販売量の増加が見込めない。
乗用車販売店(販売担当)		・展示会を開催しても集客は少なく、来店するのはカタログを持ち帰るだけの客や景品目当ての客が多い状況なので、あまり良くならない。	
都市型ホテル(スタッフ)	・不景気の今こそ、修繕、改修工事、内部の組織改革を推進したいが、予算の不足でままならない。宿泊客数、客単価が上昇しないとやるべきことができないので危惧している。		
旅行代理店(営業担当)	・業界では販売量の伸びが見込める状況になってきているが、ここに来て外国の不安定要因、SARS、鳥インフルエンザ等が出てきたことから、もうしばらくは変わらない。		
タクシー運転手	・地元の利用客の増加は見込めないで、出張等で他所から来る人が増えない限りは良くならない。		
通信会社(社員)	・携帯電話市場は飽和状態にあり、シェア競争の激化に伴って、各社間における勝ち組、負け組の差が数字で顕著に表れている。全体的なパイは、それほど大きくなりえないので変わらない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連		観光名所（職員）	・例年来客数の少ない時期に入るが、各店の営業努力で前年並みの客数は確保できそうである。客単価は今後も前年割れの状況が続く。
		ゴルフ場（副支配人）	・雪の影響がなくなる2～3か月後は、現在よりは良くなるが、3か月後の予約が前年を下回っていることや、近隣コースの価格破壊、低料金化による客単価の下落を考えると、総じて変わらない。利益確保が難しい状況である。
		競輪場（職員）	・入学、就職シーズンを迎え、一時的に消費は増大するが、景気が上向くほどではない。
		その他サービス〔自動車整備業〕（事務長）	・客は整備工場ではなく、大型用品店で用品、タイヤ等を購入している上に、地域の整備業者が増加している。安売り競争のみでは、売上は上向かない。
		設計事務所（所長）	・現在は市や県の仕事で安定しているが、先の受注件数を増やさないで現状よりやや厳しくなる。
		設計事務所（所長）	・建設関連の業種が良くなるという要素はない。
	やや悪くなる	百貨店（販売促進担当）	・個人消費力のもとである賃金が引き下げ傾向にあるので、消費の回復は見込めない。
		スーパー（経営企画担当）	・1月下旬に近隣で2件大型倒産があったので、今後、地域への影響が懸念される。
		乗用車販売店（従業員）	・決算月を迎え、前年並みの来客数、販売台数は見込めるものの、競争の激化、販売単価の下落からやや悪くなる。
		乗用車販売店（販売担当）	・28年勤めているが、今までにない景気の悪さで、クレジット、ローンの審査をかけても通らない客が増加している。自己破産したのに車を買おうという客が2～3人来店するなど、異常な悪さなので、良くなる要因はない。
		高級レストラン（店長）	・地方経済は、回復どころかより深刻さを増している。その上、コイヘルペスウイルス病、BSE、鳥インフルエンザと、食品に関する問題が次々に発生し、良くなる要素は何も見当たらない。
		一般レストラン（業務担当）	・2～3月の謝恩会パーティ受注が前年より大幅に減少している。
		観光型ホテル（経営者）	・温泉地域である当地区や当ホテルは、今後地元銀行の破たんによる影響が出てくるのでやや悪くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・人数の多い宴会の予約が少ないので、やや悪くなる。
		旅行代理店（経営者）	・BSE、鳥インフルエンザの影響で、早くも旅行の延期、中止が2件発生している。客からの問い合わせもあり、今後の影響拡大を考えると、やや悪くなる。
		設計事務所（所長）	・企画段階の話はいくつかあるが、契約が遅れている。建築業全体が公共工事の縮小等により不透明である。
	悪くなる	百貨店（販売促進担当）	・人員削減、工場の閉鎖などで失業率が増加し、消費動向は一段と悪化する。
		コンビニ（店長）	・地元銀行が破たんした連鎖反応で、取引先の問屋が倒産している。2～3月は悪くなる。
	企業 動向 関連	良くなる	輸送用機械器具製造業（総務担当）
やや良くなる		食料品製造業（製造担当）	・地域の祭りがあるので、それに向けた商品開発、積極的な販売を行えば、良くなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車関連部品が2%、建設機械関連部品は10%程度増加するので、やや良くなる。
		一般機械器具製造業（生産管理担当）	・現状の仕事量に加え、中国輸出向け建設機械関連を中心に、仕事が増加する見込みである。
		金融業（経営企画担当）	・製造業全般は依然として厳しいが、一部の技術力のある企業は好転しており、景気の底打ち感が出てきている。地場産業の織物業の中国向け生産も増加傾向にあるので、今後はやや良くなる。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・企業の進出はないが、チェーン店の新規出店が多少あり、開店後は周辺への集客等に活況がみられる。チラシに関しては、特に好調な業種はないが、チラシサイズが大型に戻る動きがみられており、全体が徐々に底上げされてきている。
その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・現在の客の様子、受注量、引き合いから判断すると、確実に良くなる。一部の業態、中小企業は依然として厳しい状況が続く。今後は一層企業間格差が拡大する。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	化学工業（総務担当）	・一部のユーザーに新製品への取組があり、当社も運動して投資を行う。一方、鋼材の値上げが決まり、値上げをユーザーに転嫁しづらい分、当社の副資材への値下げ要求が出るという懸念があるので、総じて変わらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・得意先の設備投資が若干増加しているが、まだ建屋建設という段階ではなく、設備機械の更新や新規機械の購入程度にとどまっている。半導体、車、建機の関係で非常に忙しくなっている企業もあるが、当業界に影響が出てくるのはまだ先である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注件数はあるが、コストが安く成約が難しいという状況は変わらない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・この1～2か月は非常に忙しくなっている。今後2～3か月もこのまま忙しい状況が続く。
		その他サービス業〔放送〕（営業担当）	・自動車、電機産業等を中心とする製造業からのコマースは比較的順調であるが、大型店の出店も加わり、商業、サービス業からのスポットコマース、イベントの受注が大幅に落ち込んでいるので変わらない。
	やや悪くなる	不動産業（管理担当）	・テナント入居の話よりも、既存のテナントが賃貸面積を縮小する話や、契約期間満了前に違約金を払ってでも退去したいという話が出ているので、今後はあまり良くない。
広告代理店（営業担当）		・来期予算の見積で厳しい条件を提示されるケースが多く、対策が取引先拡大しかないので、やや悪くなる。	
悪くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・当社の受注量も厳しいが、何年かぶりに同業の3社から仕事を分けて欲しいという話があった。零細企業は相当厳しい状況であり、今後の見通しも厳しい。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・求人数が増加し、人が見つからず生産が追いつかないという状況なので、先行きもやや上向きとなる。
		人材派遣会社（営業担当）	・高齢者の介護、福祉事業関連施設からの派遣オーダーが来るようになってきている。今後は、医療事務や介護、福祉の資格を持つスタッフを集めておくことが、急務である。 ・紹介予定派遣の要請が出始めているので、景気は上向いてきている。受注活性化を受け、企業がスキルを持った即戦力を求めているということである。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・大型ショッピングセンター、アウトレット周辺への来客がかなりあり、テナントも順調のようである。4月にアウトレットが20店舗の拡大をすることから、ゴールデンウィークを含めて周辺地域への来客数が増加するので、雇用も活発になる。
		職業安定所（職員）	・リストラ等の情報も聞かず、新規求人数が前年同月比で5か月連続で増加しているので、今後もやや良くなる。
		職業安定所（職員）	・企業の人員整理が前年度と比べると落ち着き、事業主都合による離職者数が減少してきている。また、製造業、サービス業を中心として、派遣や請負ではあるものの、求人数が緩やかに増加しているため、今後は上向き。
変わらない			
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・地元銀行破たんの影響で、既に1件、取引中止が決定している。良い方向の動きはない。	
	学校〔短期大学〕（就職担当）	・例年この時期に求人のある企業に問い合わせたところ、製造業の精密関連や、情報、介護などの専門的技術を要するサービス業での求人は根強い。しかし、学生が希望する事務、販売職に関しては、欠員が生じても繁忙期に派遣、パートで対応するなど、新卒採用に慎重な姿勢の企業が多い。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	-	-

4. 南関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	家電量販店（店長）	・今後2～3か月間は、大学生や社会人になる人の生活家電製品の需要が増加するが、昨年に比べて、新生活用品でも薄型テレビ等の需要が高まり、単価の上昇が考えられる。
	やや良くなる	一般小売店〔家具〕 （経営者）	・これまでは通信販売等で安売りが横行していたが、客が専門店に目を向けるようになっており、先行きに期待が持てる。
		百貨店（売場主任）	・化粧品やスカーフ、帽子等で、春物の新作の動きが良い。ファッションに敏感な人が購入していること、機能面で充実していれば売れていることから、今後にも期待できる。
		百貨店（企画担当）	・この数か月の紳士服重衣料及び婦人服ミセスゾーンの好調な動きは、天候要素を超えた伸びとなっている。化粧品やアクセサリー等が好調な婦人雑貨も、前年比増で推移しており、ファッション関係を中心に回復の兆しを感じられる。
		百貨店（販売促進担当）	・春物が立ち上がり、顧客のニーズも喚起される。大型企画が展開されるので、来店客も増加する。
		スーパー（統括）	・生活防衛型の色彩が強く、欲しいものを本当に吟味して購入する客の消費行動は変わっていないが、売上が前年並みに回復しており、来客数も若干増加しているため、今後の方向としてはやや良くなる。
		コンビニ（経営者）	・来客数が増加し、客単価も若干良くなってきており、現状を維持できる。
		家電量販店（営業統括）	・今後も、薄型テレビやDVDレコーダー等のデジタルAVの動きが活発になる。単価は低下傾向にあるが、販売量の増加によって補うことが可能である。
		家電量販店（営業部長）	・業況は年末から上向いており、パソコンの新製品やアネオオリンピックをにらんだ薄型テレビやDVDといったAV関連にも期待している。 ・春に向けたまとめ買い需要の動きも、今年は1週間ほど早い。
		スナック（経営者）	・利益は少ないが、仕事量が増加している。
		旅行代理店（従業員）	・先行予約状況が前年を上回っている。
		旅行代理店（支店長）	・海外旅行需要は根強く、テロまたは病気等の不測事態が発生しなければ、今後受注は増加する。
		通信会社（営業担当）	・薄型テレビへの買換えに伴い、デジタル放送需要が少しずつ高まりつつある。地上デジタル対応の専用端末を用いたサービスが7月頃から開始の予定であり、それに向けたケーブルの商品化が見込まれている。
		観光名所（職員）	・この4か月間、来客数が前年比120～140%と増加しており、この傾向はしばらく続く。
		ゴルフ場（支配人）	・3、4月の予約が相応に入っている。
		その他サービス〔語学学校〕（総務担当）	・ホームページで追加した宣伝への客の反応が良い。このような反応は今までにはみられなかったため、景気は良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅、不動産業界は例年、年度末に向けて動きが活発になるが、今年は低金利の安定や住宅ローン減税の1年延長が更に後押しとなる。
		住宅販売会社（従業員）	・年明けで、現状では家を買う意欲が出ないのかもしれないが、後は販売量も増加する。
		変わらない	一般小売店〔衣料・雑貨〕（経営者）
	一般小売店〔CD〕（営業担当）		・先行きに対する不安感から、嗜好品の出費を極力抑える傾向は、今後も続く。
一般小売店〔鞆・袋物〕（従業員）	・現在、バレンタインデーに合わせた品ぞろえを準備しているが、今後も、イベントがある1週間前後は販売量が増加するものの、それ以外については、厳しいと予想している。客単価も相変わらず2～3割低下しているため、よほど来客数が増加しない限り、売上は厳しい。		
百貨店（売場主任）	・客の様子、来客数、買上率、買上単価をみても、3か月で景気が良くなる様子がない。良くなるきっかけも見当たらない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（広報担当）	・消費者は無駄なものに金を使わず、納得のいく「本場の本格的な本物」を支持する傾向が顕著になっており、新しい仕掛けを展開すれば向上要素はある。ただし、郊外店を含めた全体の見通しは、依然厳しい。
		百貨店（営業担当）	・衣料品に力強い動きがなく、春夏物についても特別明るい材料がみえないことに加えて、比較的堅調だった食品部門では、BSEや鳥インフルエンザの影響が懸念される。
		百貨店（営業担当）	・トレンドが読めず、取引各社も今後の商品展開に不安を抱えている。これといったヒット商品がないまま、春物商戦に突入するため、現状が当分続く。
		スーパー（店長）	・鳥インフルエンザの影響は更に拡大する恐れがある。主菜となる食材の落ち込みにより、野菜や調味料等の販売にも影響が出るものと懸念される。
		スーパー（店長）	・今後は、パレタインデー等の催事関係で相応の売上が上がるが、BSEや鳥インフルエンザの影響で、食品は苦戦する。
		スーパー（管理担当）	・2～3か月先も、売上の増加が見込めない。客は本当に必要な商品しか購入せず、値段が安くても不要なものには手を出さない。
		コンビニ（店長）	・ビールから発砲酒、更に酒税が低いカクテルが売り出されるようでは、客単価の上昇は望めない。
		衣料品専門店（次長）	・ヒット商品が見つからない。ベーシックな肌着、インナー、靴下等は、何とか横ばいを維持できそうである。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備は順調に仕事が入っているが、販売が2割程度減少している。この先半年程度は、現状が続く。
		その他専門店〔キャラクターグッズ〕（従業員）	・昨年のクリスマス商戦からも分かるように、季節商品の動きが鈍化しており、パレタインデーやホワイトデーといった今度のイベントでも、厳しい状況が続く。
		その他専門店〔眼鏡〕（店員）	・1月に入り、各店とも来客数の落ち込みが予想以上に大きく、先行きは依然不透明である。今後もしばらく変化はない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・一般宴会が伸び悩んでいる。婚礼については前年比1.2倍と伸びているが、宿泊では海外からの客が減少気味であり、今後どうなるか分からない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・1月に入ってから、宴会の予約人数が増加していない。この先も、3～6月の婚礼件数が伸びておらず、先行き不透明である。
		旅行代理店（従業員）	・現状、若干明るい雰囲気が出てきているが、SARSや鳥インフルエンザ等の問題に客が敏感に反応すれば、海外旅行が再度減少する可能性がある。
		タクシー運転手	・当社のチケット発行が減少している。長距離の客はほとんどおらず、客が時間内に電車で帰宅する状況が続く。
		通信会社（営業担当）	・競争激化の中でも相応の加入獲得実績を上げているが、解約者も多く、かつ利用料の未収、延滞者も増加傾向である。消費者の生活面での余裕は改善されない。
		美容室（経理担当）	・正月、成人式の需要に期待し、多少売上も上がったが、それでも従来の半額である。今後も、同じような状況が続く。
		その他サービス〔語学学校〕（総責任者）	・世間では景気がやや上向いているという声があるが、当業種では来客数、販売量とも横ばいが続いており、短期的に楽観はできない。
		設計事務所（所長）	・役所の仕事が以前の5分の1に減少している。民間の動きも悪いので、急速に景気が良くなるとは思えない。
		住宅販売会社（経営者）	・大企業については設備投資、輸出関連で多少景気が上向いているようだが、中小企業では先行きが真っ暗という状況にある。
	やや悪くなる	スーパー（店長）	・2月下旬からアルコールの販売許可が下りて、売上が上がると見込んでいたが、1月の下旬と春先に半径3キロ以内の商圈に2店舗競合店が出てくるため、競争も激化する。
		コンビニ（経営者）	・当店は駅に近く、近隣にスーパーもあるが、人の通りが少ない。このままでは、先行きは悪くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・2、3月の気温によるところが大きいですが、夏から冬の流れを考えると、この春物商戦も不安である。攻めの商戦ではなく、消化率を考える守り商戦になるので、売上高の減少が予想される。
		乗用車販売店（販売担当）	・排ガス規制が一段落したため、今後数か月間、トラックの需要は低迷する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者） 一般レストラン（経営者） タクシー運転手 設計事務所（所長）	・4月からの総額表示義務、医薬品の販売規制の緩和など、この先も明るい材料はない。 ・BSE、鳥インフルエンザ、コイヘルペスウイルス病等、食材に対する不安感が増大する。 ・依然として法人タクシー業界では増車が続けているので、やや悪くなる。 ・4月以降の計画がほとんど見受けられない。他社でも、4月以降の仕事は全くない。
	悪くなる	その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業） 一般レストラン（経営者） タクシー運転手	・食料品に対する危機感が高まり、単価も高くなる。 ・ただでさえ来客数が減少していることに加え、肉類の仕入価格が倍近くに値上がりし、状況は更に悪くなる。 ・客は、将来を考えて非常に節約しようとしており、今後も金を使わない。
企業 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	出版・印刷・同関連産業（営業担当） 電気機械器具製造業（経営者）	・一部上場企業の管理部門からの注文が増加傾向にある。 ・引き合いが一般的に活発になってきて、成約率が上がっているため、今後はやや良くなる。
	変わらない	化学工業（従業員）	・10、11月の生産は多少増加したが、12月以降は以前の生産量に戻っており、今後は現行のままで推移する。
		金属製品製造業（経営者）	・試作部門の3月期末納期の引き合いが活況であるが、受注単価は相変わらず低い。季節変動の要素もあり、大筋では今後も変わらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・3～4月の販売計画が、1月と同水準である。
		建設業（営業担当）	・例年に比べ建設の需要が極めて少なく、受注高は全盛期の60%程度である。営業範囲を拡大しているが、なかなか受注には結び付かない。今期も受注高は例年並みにとどまる。
		建設業（経理担当）	・年度末を控え、例年は新年度の良い話が聞かれる時期だが、今年は景気が上向き話がいまだに入っていない。
		輸送業（経営者）	・荷主の話を総合しても、業者の話を聞いても、良くなる要素がない。
		金融業（審査担当）	・建設関連の業種では、依然として資金繰り、受注ともに厳しい状態が続く。
		不動産業（総務担当）	・オフィス環境に明るい材料が全くみられず、賃料相場の下落傾向もまだ続く。
		広告代理店（従業員）	・取引先は、業務上必要でも最低限しか発注しないので、固定客からの受注の増加は見込めない。新規の仕事が入るには、もう少し時間がかかる。
	その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・通信設備に関し、予算削減に向かう企業が多い。信頼性やセキュリティを犠牲にしても、安価なネットワークを選択せざるをえないなど、取引先の厳しい状況が続く。	
	やや悪くなる	食料品製造業（関連会社担当）	・当社では肉類の材料も使っているため、BSEや鳥インフルエンザによる肉の輸入禁止の影響を受け、悪くなる可能性が懸念される。
出版・印刷・同関連産業（経営者）		・大手自動車も中国等に海外移転してしまい、仕事量が減少している。価格競争の末端に位置する我々のところでは、ますますひどくなる。	
不動産業（経営者）		・新築物件が非常に安い家賃で出ている。土地も、依然として値下がりしており、今後はやや悪くなる。	
悪くなる	輸送業（総務担当）	・得意先の出荷量が不明で、今後の見通しは非常に厳しい。輸出の大型物件も今年度で終了し、当面はほとんど件数もなく、国内の出荷量もほとんど先がみえない状況である。	
	通信業（経営者）	・中小企業の設備投資がまったく出てこない。景気の先行きが不透明で、投資効果に期待できないことによるものと思われる。	
雇用 関連	良くなる		
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・官庁の経費削減のため、総務事務のIT化とともに、業務集約化で新たな派遣の雇用が始まる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・地域ごとに、中途募集に関する問い合わせが増加している。パート、アルバイトの一部を社員化する動きもある。	
	求人情報誌製作会社（企画担当）	・各企業のリストラが一段落し、本業の回復により、収益も大きく増加している。年内は緩やかな上昇で推移する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・新たな募集計画を立てているところがある。また、即戦力に期待することから、新卒から中途採用に切り替えるところもある。今よりは多少、募集の数が増加する見込みである。
		職業安定所(所長)	・パート主体ではあるが、新規求人が増加傾向にあり、有効求人倍率が改善傾向を示している。今後もこの傾向で推移する。
		職業安定所(職員)	・企業、事業所を対象として、今後3か月以内の雇用見込み調査を実施したところ、30人未満規模の小規模企業等からも、募集計画があるとの回答が多数寄せられている。昨夏に実施した同様の調査では、計画ありの回答はほとんどなかったことから、景気はやや良くなる。
	変わらない	人材派遣会社(社員)	・取引先の経営者が、先行きに対して現状と変わらないという見通しを持っている。中国に工場を持っている企業では、SARSが再発することを心配しており、不安材料だと話している。
		人材派遣会社(社員)	・求人側が、以前にも増して高いスキルを持つ人材を求める傾向が強まっており、マッチングが今後とも難しい。
		人材派遣会社(支店長)	・短期、単発案件や、デモンストレーターなど土日祝日の案件は増加するが、長期の安定的な案件については、特別な需要が見込めない。
		求人情報誌製作会社(営業担当)	・繁忙期に合わせた求人募集が多い。長期勤務の求人でアルバイトであるなど、社員としての雇用が少ない。企業の事業拡大に向けた募集が少ないことから、今後もしばらく現状維持が続く。
職業安定所(職員)		・正社員や自社の社員でなく、請負での求人が目立ち、この雇用形態が今後変わることは予想されない。	
学校〔専修学校〕(就職担当)		・求人実績企業の状況調査によれば、採用未定企業が多く、来年度の求人票獲得見込数が大きく伸びるとは期待できない。	
やや悪くなる	人材派遣会社(社員)	・50歳以上の採用が、更に難しくなる。	
悪くなる	-	-	

5. 東海(地域別調査機関:(株)UFJ総合研究所)

(-:回答が存在しない、:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	商店街(代表者)	・客の雰囲気は良くなってきている。
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・財布のひもが緩む傾向が続いている。
		百貨店(企画担当)	・春夏のファッションには昨年までのトレンドと大きく変化がみられるため、買い換え需要が期待できる。これが百貨店全体への売上増加に寄与する。
		百貨店(外商担当)	・来客数、客単価とも上向いている。
		スーパー(総務担当)	・3か月連続して客単価が上昇している。
		コンビニ(商品開発担当)	・月を追うごとに売上が伸びている。
		乗用車販売店(従業員)	・売上を確保できる見込みがある。客の話でも、今年に入ってから忙しいという客が増加している。
		乗用車販売店(従業員)	・消費税駆け込み前に購入した客の買い換え需要が多く、今後も期待がもてる。客からも暗い話は減っている。
		一般レストラン(スタッフ)	・売上、来客数とも良くなってきており明るい兆しがみられる。
		スナック(経営者)	・客単価が低下しているため売上は伸びていないが、来客数は若干増加しており、良い傾向である。
		観光型ホテル(スタッフ)	・春の企画商品の売行きが好調な滑り出しである。
		都市型ホテル(支配人)	・今後愛知万博関連の需要が見込まれる。
		都市型ホテル(従業員)	・予約状況が比較的好調である。
		都市型ホテル(スタッフ)	・宿泊部門は不透明だが、飲食部門の予約は好調である。
パチンコ店(経営者)	・景気回復感が周囲でみられ、サービス業には追い風である。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔語学学校〕(経営者)	・年初より、問い合わせ数、入校者数とも順調に増加している。
		その他サービス〔珠算塾〕(経営者)	・新入学の時期で増加を見込んでいる。
	変わらない	商店街(代表者)	・自家消費の購入が伸びていないため、販売量も今一つである。
		百貨店(企画担当)	・景気回復のパロメーターと位置づけられる紳士服の売上に明るさがみえないため、景気回復はまだ先である。
		百貨店(経理担当)	・外商が伸びてくれば上向きと判断できるが、まだそこまでの状況ではない。
		百貨店(販売促進担当)	・売上は天候による影響を大きく受けており、初冬が暖かく季節商品の売上が減少した反動で現在クリアランスの調子はよい。しかし、全体的にみると前年と同様の推移となっており、楽観視はできない。
		スーパー(経営者)	・特売日には通常の倍の来客があるが、それ以外は必要な物以外は購入せず、安い商品ばかりが売れている。
		スーパー(店長)	・食の安全に対するイメージダウンが続いており、良くなる見通しは立たない。
		スーパー(店員)	・競合店も同じような厳しい状態で、今後も良くなるとは思えない。営業時間を延長する計画があるが、そういうことで売上を伸ばすしか方法がない。
		コンビニ(エリア担当)	・競合の出店が加速し影響を受けるが、新装予定の店舗があり大きく影響は受けない。
		コンビニ(エリア担当)	・競合激化による売上の前年割れ状況は今後も続く。
		コンビニ(エリア担当)	・客単価の回復傾向はみられるが、競合が厳しくなるため来客数の増加は難しい。
		コンビニ(エリア担当)	・我慢も現在が底という感はある。衝動買いを誘う商品も徐々に出てきている。
		コンビニ(売場担当)	・しばらくは底ばい状態が継続する。
		衣料品専門店(企画担当)	・必要最低限の購買意欲はあるが、消費を引き上げるトレンドはまだ見つからない。
		自動車備品販売店(経営者)	・低額商品の売上は好調であるが、高額商品は売れていない。比較的安定していた部門も厳しさを増している。
		住関連専門店(営業担当)	・住宅ローン減税が延長になり、春頃から動きが出てくると予測している。
		高級レストラン(スタッフ)	・常連の客を固めるとともに、推奨による客単価上昇で売上を確保している。しかし、一般客は相変わらず減少が続いている。
		スナック(経営者)	・企業関係の客が減少しているため個人の客で売上を確保しているが、週末でも客足は鈍い。
		旅行代理店(経営者)	・愛知万博関連は良い材料だが、鳥インフルエンザやBSEなどの問題が懸念される。
		旅行代理店(経営者)	・個人旅行は増加するが、鳥インフルエンザなどの懸念材料もある。
		旅行代理店(従業員)	・SARSの再発懸念や鳥インフルエンザの問題など、海外旅行の先行きは依然不透明である。
		旅行代理店(従業員)	・国内旅行は順調に推移するが、海外旅行は鳥インフルエンザやSARS拡大の影響懸念がある。
		旅行代理店(従業員)	・イラク問題やSARSなどで悪い事態が発生すれば非常に厳しい状況になる。
		テーマパーク(総務担当)	・良い状態がこのまま継続する。
		ゴルフ場(経営者)	・予約件数は昨年、一昨年に比べて10%以上減少している。また、例年ならクラブの買い換えがある時期だが、今年は客の購買意欲が感じられない。ゴルフが好きな客でも、年間のゴルフ回数は減少している。
		ゴルフ場(企画担当)	・来客数が徐々に増加する季節だが、景気が良くなるほどの来客数は見込めない。
		美容室(経営者)	・イメージチェンジをするために来店する客は少ない状況で、しばらくこのままの状態推移していく。
		その他サービス〔パチンコ機器製造販売〕(エリア担当)	・来客数は減少しているが客単価が上昇しているため、売上は前年と変わっていない。しばらく横ばいが続く。
		設計事務所(経営者)	・仕事量は徐々に増加しているが、単価は一向に上昇してこない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
	やや悪くなる	一般小売店〔酒〕（経営者）	・食品小売業界では鳥インフルエンザ、BSEなどの不安要素が発生し、消費にとっては大きなマイナス要因である。	
		スーパー（仕入担当）	・競合店の出店が予定されており、来客数が10%以上減少する厳しい状態となる。しかし、品質の良い輸入食品、健康食品は継続的に売れていく。	
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・年末商戦には大きな変化がなく、来客数が前年割れの状況は変わらない。	
		一般レストラン（経営者）	・土曜日の来客数の減少が著しい。原因が分からないため回復は当分見込めない。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況があまり良くない。	
		理美容室（経営者）	・客の来店サイクルが徐々に伸びている。	
		設計事務所（経営者）	・長期的な視点での商談がない。	
	悪くなる	住宅販売会社（経営者）	・客は住宅購入を見合わせており、また当方も値引き販売するため利益が少ない。	
		コンビニ（店長）	・小サイズの商品や低価格商品がよく売れていることから、消費はまだ抑えられている。	
		家電量販店（店員）	・BSEの影響による牛肉の輸入規制やイラク問題などが影響してくる。	
		一般レストラン（スタッフ）	・BSEや鳥インフルエンザなど食の安全に関わる問題が相次いで発生し懸念される。	
		住宅販売会社（業務担当）	・住宅着工の駆け込み需要が終わり、製品販売量、契約件数いずれも前年実績を下回っている。	
		企業動向関連	良くなる	
		やや良くなる	化学工業（総務担当）	・IT関連商品の引き合いが増加している。
化学工業（人事担当）	・企業の体質改善に取り組んできた成果が出てきている。			
電気機械器具製造業（営業担当）	・デジタル化の波に乗って新たな市場が創造され、業界の景気も活発になる。			
輸送用機械器具製造業（総務担当）	・受注量が増加傾向にある。			
輸送用機械器具製造業（経理担当）	・国内の設備投資は持ち直しの傾向にある。			
輸送業（エリア担当）	・自動車部品や液晶関連が好調である。			
新聞販売店〔広告〕（店主）	・流通、サービス、不動産などチラシ全体が伸びている。			
会計事務所（職員）	・合理化、省力化、迅速化に対応している企業では、利益は上向きに推移する。			
変わらない	電気機械器具製造業（従業員）		・受注が急激に増加することはないが減少することもなく、安定感が出てきている。	
	輸送用機械器具製造業（工務担当）		・受注状況が高水準で安定している。	
やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）	・年始は販売量に回復の兆しが見えたが、BSEと鳥インフルエンザの問題で消費者の購買心理に少なからぬ影響が出てくる。		
	印刷業（営業担当）	・取引先が発注予算を縮小する計画が浮上しており、現在より増加することはない。		
	金属製品製造業（従業員）	・低価格で受注した結果が表れてくる時期となり、収益面での圧迫が現実化する。		
	一般機械器具製造業（販売担当）	・米国市場が注文のほぼ100%を占めるが、1ドル110円以上の円高がこれ以上続くと、製品価格への転嫁もできなくなり、利益を削るしかない。		
	電気機械器具製造業（経営者）	・顧客企業から強力な値下げ要求があり、不安がある。		
	電気機械器具製造業（従業員）	・国内縫製業が縮小傾向にある。		
	輸送用機械器具製造業（統括）	・新年度以降の単価低減要求が既に内示されており、採算確保が非常に難しくなっている。販売量増加も見込めていない。		
	建設業（経営者）	・住宅戸数が増加したといっても単価の低いマンションが中心で、工場や事務所、倉庫の増築はほとんどない。受注件数が増加しても単価は低下し続け、厳しさを増す。		
	経営コンサルタント	・勝ち組企業の工場周辺では住宅開発も盛んであるが、負け組企業の方が数が多く、全体としては良くなっていない。		
	悪くなる	非鉄金属製品製造業〔铸件〕（経営企画担当）	・引き合い件数が減少しており、季節要因を考慮に入れても今後一層の減少傾向となる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連	良くなる	求人情報誌製作会社 (編集者)	・求人数は相変わらず激増しており、今後愛知万博、中部国際空港関連の影響で雇用環境は更に良くなる。
		職業安定所(所長)	・卸売業界、小売業界ともにそれぞれ100名程の求人増加が見られ、好調である。
	やや良くなる	人材派遣会社(社員)	・派遣スタッフを募集しても計画通りに人が集まらない。正社員よりも派遣採用という傾向は強く、需要はますます上向きになっていく。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	・現在のところ求人数は停滞している感があるが、企業の人事担当者によると様子見している企業も多く、採用意欲はあるため、数か月後には徐々に回復していく。
		求人情報誌製作会社 (企画担当)	・正社員の求人にはほとんど変化が見られないが、アルバイト、パート求人の増加はめざましく、雇用市場全体を活気づけている。
		職業安定所(職員)	・輸送用機械器具製造業の求人が減少しているという不安要素はあるものの、一般機械器具製造業の求人が増加しており、製造業全体としては増加傾向にある。また、求人窓口も盛況である。
		民間職業紹介機関(職員)	・企業からの求人数は増加している。求人誌の売上も増加しており、活発に動き始めている。
		学校[大学](就職担当)	・企業からの学生求人は43万4千人と、前年と比較して3千人増加している。一般の求人と合わせると1.35倍となっており、今後も求人は横ばいもしくは微増していく。
		学校[専門学校](就職担当)	・昨今の今ごろは第二新卒者などが多く、大学などからの追加求人依頼が多く届いていたが、今年は2005年新卒を対象とした求人票が圧倒的で、2004年卒業者の動きが落ち着いたと予想される。複数の内定を得て採用辞退をする今年度卒業予定者や中途採用予定者もあり、雇用は上向きである。
	変わらない	アウトソーシング企業 (エリア担当)	・求人は非常に多く、労働者不足が解消する気配はない。しかし採用がスムーズにいかない限り、景気は好転していかない。
		新聞社[求人広告] (営業担当)	・現在比較的好調な輸出関連の製造業も、円高の影響で雇用は派遣や業務請負中心となっている。正社員雇用については極めて慎重で、求職者にとっては狭き門となっている。この雇用状態が続いている限りは、景気の先行きについて慎重な見方をせざるを得ない。
		職業安定所(職員)	・企業は求める能力と合致し即戦力となる人材をこれまで以上に要望しているため、求職者とのミスマッチが更に拡大する懸念がある。またフリーターもまだまだ増加する状況にあり、予断を許さない。
		職業安定所(管理部門 担当)	・求人数は増加しているがミスマッチが多く、就職率は7.3%と依然として低い。
	やや悪くなる	民間職業紹介機関(経営者)	・大手自動車関連メーカーの好業績に支えられ、今後も技術系求人の積極的な採用活動が継続する。
職業安定所(職員)		・踏ん張っていた中小零細事業所が、今後資金繰りなどの問題から倒産、リストラに追い込まれることが懸念される。	
悪くなる	-	-	

6. 北陸(地域別調査機関:(財)北陸経済研究所)

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	通信会社(社員)	・携帯電話の新機種の発売を近く予定している。
	やや良くなる	百貨店(営業担当)	・春物のトレンドはまだ絞り込めていないものの、ヤングキャリア層の関心は春物に移っており、トレンチコートなどを中心に春物の動きが既に始まっている。 ・制服を廃止した企業が増えているため、今まで北陸で弱かったシャツやブラウスなどの動きが例年よりも良くなることが予想される。
		コンビニ(経営者)	・12月末に酒の販売を始めたため売上は5%程度上昇しており、暖かくなるにつれ売上増が期待できる。
		家電量販店(経営者)	・光ディスクメディア、DVD、パソコン用などのサプライ品、消耗品の売上が前年比倍増した。その他、デジカメメモリー、USBメモリーなども好調に売れている。
		乗用車販売店(総務担当)	・ハイブリッド車の受注は相変わらず好調で、店頭への来客数も多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（スタッフ）	・新しいもの、珍しいもの、独創性のあるメニューの提供により、来客数の増加が期待できる。 ・消費者は鳥インフルエンザ、BSEなど食肉に対する不安を持っているため、外食産業としては多少の心配はある。
		旅行代理店（従業員）	・SARSや鳥インフルエンザなど悪い要素もあるが、2月から上海向けのチャーター便が動くため期待できる。
	変わらない	商店街（代表者）	・バーゲンの時期になっても、若者以外の客はほとんど買物に来ない。
		百貨店（売場主任）	・冬物が低迷し、春物の購入が前倒しになったことから、2月から3月にかけての春物の実売期に向けて、商品量の確保が心配である。
		百貨店（営業担当）	・ファッションは全般的に今までのカジュアル志向からエレガンス志向に変わりつつあり、春物の手ごたえを若干感じている。一番懸念されるのは消費税総額表示の消費者に対するイメージであり、この点から景気の先行きはまだまだみえにくい。
		スーパー（店長）	・BSEや鳥インフルエンザの問題は食品スーパーに大きな影響を与えている。牛肉問題は客が慣れていて微減にとどまったが、鶏肉は初めての情報で客に戸惑いがあり、中国での発生が加わったことから一挙に落ちこんだ。逆に豚肉は増加したが、食肉全体では落ちこんだ。魚は多少プラスになっている。
		スーパー（店長）	・店内を見回っても客はなかなか購買に至らない。入店各社も同様で、この傾向が依然続く。
		スーパー（店長）	・消費傾向はやや良くなっているが、4月に消費税の総額表示が実施されたときに消費者がどのように反応するかが問題である。消費者が将来の消費税率引上げの一段階としてとらえると影響が大きい。
		スーパー（店長）	・食品は鳥インフルエンザやBSE問題の影響で、原価が上がり、また売上は多少ダウンしているが、需要は豚肉や水産関連へ移行している。 ・衣料は核になるトレンドが少なく、トレンチコートなどは若干売れているが、今後大きな期待は持てない。
		スーパー（営業担当）	・今後、来客数は現状を維持できるが、単価や買上点数は伸びる要素が見付からない。
		コンビニ（経営者）	・雇用問題や年金問題などで、若い世代も年配の人も財布のひもが固くなりがちである。景気は底を打っているが、金離れがどうしても悪い。
		乗用車販売店（経営者）	・消費は低価格品、バーゲン品に大きく偏っている。
		乗用車販売店（営業担当）	・正月のイベントにおける来場者数や販売量は前年と比較してほとんど変わっていない。この先も変化する兆しが見えない。
		住関連専門店（店員）	・店側から仕掛けづくりをしないと、売上増加は望めない状況が続いている。客の買物の仕方はまだ厳しさが続く。
		高級レストラン（スタッフ）	・2月は全店でキャンペーンを実施し、3、4月は最大の繁忙期で春プランを打ち出しているが、例年のペースで受注が入ってきている。
		スナック（経営者）	・常連客の中で複数の製造関係の会社が工場の増築に踏み切る反面、複数の個人、小規模会社が間もなく廃業するなど、事業展開はますます二極化している。
		観光型旅館（スタッフ）	・1月の実績は前年を上回る見通しで、2、3月も前年を上回る予約を保有している。ただ、4月以降はまだ数字がみえない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊、レストランの通常営業は前年同期を上回る見込みである。婚礼の受注件数は、カジュアル志向の高まりでゲストハウス施設に流れたため前年を大きく下回り、全体でも下回る見通しである。
	テーマパーク（職員）	・2、3か月先には大口の団体ツアーの予約があり、順調な来客が予想されるが、その他の団体、グループ客の動きが鈍く、周辺の温泉旅館の予約状況も悪いいため、全体としては今後変わらない。	
	競輪場（職員）	・来場者数は冬期間でもあり、天候に左右され、売上は低迷傾向にあるものの、客単価の変化がなく、ほぼ一定額を維持している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（従業員）	・内見会などでは春から住宅建設を考えている人が多く見受けられるが、実際の契約となると客も結構厳しい。また、ローン控除を意識して年内の建築を考える人が増える傾向もあるが、最終契約に持ち込めるケースは前年並みとはいかない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・2月から商店街の再開発工事に着手するため、来客数が落ちる。
		百貨店（営業担当）	・百貨店における春に向けてのヤングファッションのヒットアイテムが、メーカー等の展示会に行ってもはつきりみえてこない。
		家電量販店（店長）	・来客数や客単価の回復がみられず、下降したままの状態が続く。
		観光型旅館（経営者）	・4月からの予約数が悪い。浜名湖で開催される花の博覧会が予約数にどう影響するのか心配である。
		美容室（経営者）	・昨年まで何とか好調だったヘアカラーであるが、最近はその明るさがトーンダウンし、変化が目立たないため、来店サイクルが長くなっている。今後、苦戦が予想される。
		住宅販売会社（従業員）	・大雪の影響で受注活動が一時的にせよ停滞した。タイミングが失われたために、客に対する詰めができず、このマイナスはすぐには取り戻せない。
	悪くなる	一般小売店〔鮮魚〕（店長）	・4月から消費税の総額表示が実施されるが、売価を簡単に上げにくいいため、利益の確保が難しくなり、企業体質が弱まる。
		タクシー運転手	・運転代行業者も2種免許が必要になるため、代行業者がタクシー業界に参入する傾向があり、既に数社がタクシー申請を行った。供給がますます過剰となり、競争が激化する。
企業動向関連	良くなる	一般機械器具製造業（経営者）	・取引先からの要求がますますエスカレートしている。最近では価格よりも納期が厳しい。12、1月に引き合いのあった製品の納期が3、4月に集中している。
	やや良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・単価は安いものの、受注は増加傾向にあり、操業は増える。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・デジタル家電向けの製品が増加している。今後製品価格が下がるため、数量的にはますます増加する。
	変わらない	化学工業（営業担当）	・取引先のドラッグストア、量販店では消費者の低価格志向にこたえるため、値下げ要求がエスカレートしている。
		金属製品製造業（経営者）	・2、3か月後の注文の予約状況をもて、現状と変わらない。
		精密機械器具製造業（経営者）	・本来3、4月は春の商戦に向けて仕事量が増えていく季節であるが、現状は例年のペースからみて増え方が少ない。また、良いメーカーは比較的多くの仕事を抱えているが、悪いところは相変わらず少ないままで低迷しており、この傾向が今後更に広がる。
		輸送業（配車担当）	・低下した受注価格がまだ上がってこない。
		通信業（営業担当）	・次世代携帯電話への切替えは進んでいるが、毎月の利用料金の減少や他社の攻勢によって、トータルでは変わらない。
		不動産業（経営者）	・同業者の新年会で、先行きは期待できないという見方が多い。
	やや悪くなる		
	悪くなる	建設業（経営者）	・同業各社では3月の年度末の公共工事が減少し、4月の入金が少ない結果、運転資金に支障を来す。4月以降、建設業では倒産が続出する懸念がある。
雇用関連	良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・昨年以降、求人数の動きが前年を大幅に超えており、東京、大阪、名古屋など都会地も良くなった。
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・今春オープンする地元の駅前再開発や大型ショッピングセンターなどの求人ニーズが期待できる。
		職業安定所（職員）	・求職者の減少傾向が顕著である。
		民間職業紹介機関（経営者）	・好調な決算が予測される自動車部品メーカーなどではこの勢いが持続する。また、大手電気メーカーが地元で大型工場を建設するため、多くの雇用確保が期待できる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・求人、求職の動きに大きなものがみられず、特に景気に大きな影響を与える要素が見受けられない。
		職業安定所（職員）	・パート求人や派遣、請負求人が増加傾向にあり、求人が量的に増えても質的には変わらない。
	やや悪くなる	-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	-	-

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・酒類販売ができるようになり、それに菓子、惣菜類が付随して売れ始めたことから、先行きに期待が持てる。	
		通信会社（経営者）	・半年先を見越した見積依頼が増えている。	
		その他住宅 [情報誌]（編集者）	・昨年は新築マンション供給が減少したことで、販売在庫の増加が抑えられたため、今後の新規供給の増加が期待される。	
	やや良くなる	一般小売店 [酒]（経営者）	・昨年のタウン誌のお年玉企画では申込が前回の約3倍に増加するなど、地域での認知度が高まっていることから、今後の集客に期待できる。	
		百貨店（売場主任）	・これまで買い控えていた客やフリー客が春夏物の先買いに入ると予想される。またトレンドアイテムの芽がいくつか見えており、昨年とはかなり違った色、素材が出てくることなどから新しい需要が出てくる。	
		百貨店（経理担当）	・少し暖かくなったこともあり、若年層の動きが出てきた。また、婦人服の高額商品については大きく落ちこんでいないため、今後は少し良くなることが期待される。	
		百貨店（営業担当）	・薄型テレビを買うと、次はソファやテーブルなどリビング商品を買って換える客が多いことから、需要の増加が期待される。	
		スーパー（経営者）	・引き続き畜産物関係の不安材料は残るが、農産物の相場も昨年に比べて引き締まっており、右肩下がりだった水産物の需要も堅調な推移が予想されることから、しばらくは現在の好調が続くと思われる。	
		家電量販店（店長）	・アテネオリンピックに向けて、大型テレビや録画機の動きも良くなっていく。大型液晶テレビの価格が安くなって手ごろになってきているため、今後売上は伸びる。	
		乗用車販売店（営業担当）	・2月、3月に車検を控えている客が、新車のカタログや、見積を取るために来店することが多かったため、先行きに期待している。	
		都市型ホテル（副総支配人）	・宿泊部門、宴会部門ともに今後の伸びが見込まれるほか、レストラン部門も食材以外は懸念されるところがなく、順調に推移する見込みである。	
		旅行代理店（経営者）	・SARSの再流行などのアクシデントがなければ、海外旅行がもう少し上向くのではないかと期待している。	
		タクシー運転手	・車両が新しくなることや、タクシーに乗ろうという客が増えつつあることから、先行きに期待が持てる。	
		通信会社（社員）	・アンケートによると、携帯電話を1年以内に機種変更をしたいと考えている人が多いという結果であったので、今後ニューモデルの好調な売行きが期待される。	
		観光名所（経理担当）	・昨年の10月以来、来客数も売上も前年比で少しずつ伸びている。天候が良好である影響もあると思われるが、一時よりは少し上向いていることから、先行きに期待できる。	
		美容室（店長）	・4月は開店1周年に当たり、記念イベントなどを大々的に開催する予定であることから、売上の増加が見込まれる。	
		変わらない	百貨店（売場主任）	・高額商品を中心に売上は徐々に回復傾向ではあるが、来客数は減少していることから、全体としては今後も厳しい状況が続く。
			百貨店（売場主任）	・昨年のヒット商品が継続して売れなくなっている傾向にあり、また今後のヒット商品の予測が困難なため、メーカーも生産を抑え気味である。したがって大きな回復は期待できない。
			百貨店（企画担当）	・春物商品などにやや動きがみられるものの、今後商況全体をけん引するような商材は見当たらないため、一進一退の状況が続く。
			百貨店（営業担当）	・今後、新規催事を積極的に導入することで前年実績の確保をねらうが、大型スーパーの出店が近畿圏に相次いで予定されているなど、まだまだ厳しい状況が続く。
スーパー（店長）	・家電など製造業の上向き傾向がまだ食生活に反映されておらず、食品スーパーにとっては厳しい状況が続く。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（経理担当）	・ B S E や鳥インフルエンザの影響は今のところ限定的だが、さらに広がりを見せた場合には影響が懸念される。外食からスーパーへ需要の移動が起こる可能性もあるが、現段階ではまだ不透明である。
		家電量販店（企画担当）	・ 今年、オリンピックを始めとしたイベント効果などに期待できることから、春先に向けて需要が徐々に高まることが期待される。
		その他専門店〔医薬品〕（店員）	・ 店舗のリニューアルや改装後の売出計画をしているが、単価の問題で若干販売価格を落とさざるを得ないことから、今後も厳しい状況が続く。
		一般レストラン（スタッフ）	・ B S E、鳥インフルエンザ、コイヘルペスなどによる外食業界への影響は大きいですが、これは消費の低迷にはつながらない。
		観光型旅館（団体役員）	・ S A R S や鳥インフルエンザ、イラク情勢などの不安要素があり、好転するという確信が持てない。
		都市型ホテル（経営者）	・ 現在の手持ち予約を見ていると、2～3か月後もほぼ現状維持の状態である。
		都市型ホテル（支配人）	・ 企業の会議や研修などの会場予約はやや増えている。経費節減から値下げの要請が厳しい状況ではあるが、今後も現状維持で推移する。
		旅行代理店（広報担当）	・ 在阪球団応援ツアーのような、目的性のあるものについては客が増えているが、通常のツアーには申込が少ない状況であることから、今後も厳しい状況が続く。
		通信会社（経営者）	・ 新しい提案、新技術の開発案件などのモデルを見出せない状態で、客への提案が難しい。
		観光名所（経理担当）	・ 現況では派手な宣伝やお金をかけたイベントが出来ないため、話題性のあるイベントを開催して前年実績を維持していかざるを得ない。
		遊園地（経営者）	・ 都市近郊の遊園地の閉鎖が相次ぐなど、生き残りに努力しているのが現状であることから、今後も厳しい状況が続く。
		ゴルフ場（経営者）	・ 業種によっては良くなっている会社もあるが、公私ともにまだまだゴルフにお金をかけられない状況であることから、先行きにはまだ期待できない。
		その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・ イベント主催者は少ない経費での運営を強いられているので、今後は常連客であっても規模の縮小や中止が発生しそうです。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・ レンタル部門はDVDへの切替え、競合店との競争激化が続く見通しである。販売部門においてはビッグタイトルもなく、先行きが不透明である。
		住宅販売会社（経営者）	・ 不動産の需要が増加しているエリアと減少しているエリアが二極化しており、総合的な需要が増える要因が見当たらない。
		住宅販売会社（従業員）	・ マンション、建売、土地などの動きが活発化しておらず、一般戸建の受注も昨年並みであることから、先行きには期待できない。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・ 今の状況では、家を新築する気持ちになりにくいと考えられるが、1月は新築の計画がない客の来場が増えるなど、今後も住宅ローン減税の延長が少しは後押しとなりそうである。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・ 来客数、販売量ともに動いていない。冬物セールも売れないため、早々と春物に切り替えている。先行きの見通しは暗い。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・ 消費税の内税表示に伴い、消費者が割高感を感じるものが懸念される。それに慣れるまでは若干の落ち込みが予想される。
		スーパー（経営者）	・ 年明け早々に近隣の同業他社が2社連続して倒産するなど、周辺地域の景況感是非常に悪く、先行きには期待できない。
		コンビニ（経営者）	・ 久々のヒット商品も長期的に持続するかどうかは疑問で、全体的な売上減少の歯止めにはなれないことから、先行きには期待できない。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・ ドラッグストアの店舗は現在でも供給過多気味である。さらに同業種の出店が相次いでいることから、今後はつぎは合いになることが懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ）	・例年受注していた大口の新入社員研修が東京開催に変更され、またプロスポーツ団体も競合施設での宿泊に変更になったが、これらのマイナスをカバーできるだけの要素が見当たらない。
	悪くなる	百貨店（売場主任）	・消費税の内税表示が与える割高感などが懸念される。また、特選ブランドの値上げによる低迷、ファッション関連商品でのヒットアイテム不在など、今後の回復には期待できない。
企業 動向 関連	良くなる	建設業（経営者）	・土壌汚染調査分野では大阪府の条例が施行され、また電線類地中化分野では国土交通省が景観に関する規制を法律化しようとしていることから、業界が更に活性化することが期待される。
	やや良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・従来からの顧客による発注量が増える予定であり、さらに新規受注もあることから、売上増加が期待できる。
		化学工業（経営者）	・得意先の業績が二極化しているが、勝ち組に売上を引き上げられる形で徐々に売上が回復基調に乗ってきたことで、先行きに期待できる。
		金属製品製造業（経営者）	・鉄鋼関連は世界的な原料高による一次製品の値上げから、前倒し発注などの仮需による活発な荷動きが始まっている。
		金属製品製造業（経営者）	・価格については相変わらず厳しい状況が続いているが、会計年度末に向けて、予算消化のための小口案件が若干始まっている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・今後数か月は前向きに推移すると予想される。ただ市場規模は縮んだままなので、商談での競争は激しく、一歩間違えば戦列から離脱しなければならない状況は今後も続く。
		一般機械器具製造業（経営者）	・航空機以外のほとんどの業界は忙しくなっているようで、受注活動を航空機以外にシフトして受注を増やしていることから、先行きに期待できる。
		輸送業（営業所長）	・自動車NOx・PM法によってトラックが減っており、トラックの確保が困難になる恐れがあるものの、年度末に向かって、国内貨物、輸入貨物は活発に動くことが期待される。
	コピーサービス業（従業員）	・4月から消費税の内税表示が始まることで、印刷業界は徐々に需要回復が見込めそうである。	
	変わらない	窯業・土石製品製造業（経営者）	・一般家庭向けの調味料などの瓶を作っているが、これらが売れていないことから、まだまだ厳しい状況が続く。
		不動産業（経営者）	・収益マンションの取得希望者が多くなってきているが、立地条件などの良い物件が市場に不足しているため、先行きに期待するまでは至らない。
やや悪くなる	繊維工業（経営者）	・繊維、特に靴下、パンストの業界では価格、販売量ともに悪化する傾向に全く歯止めがかからない状況であることから、先行きには期待できない。	
	繊維工業（団体職員）	・輸入タオルがまだ増加傾向にある。このまま綿糸価格の高騰が続くと、採算に大きく影響する。流通段階では一部国産品を希望する動きもあるが、まだ需要を喚起するには至っておらず、まだまだ厳しい状況が続く。	
	悪くなる		
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・即戦力でないスタッフに仕事が入らない状況が顕著になり始めているが、年度末にかけて仕事量は増えてきている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・毎年需要が高まる時期ではあるが、今年は特に銀行、生保、損保関係の要員募集の伸びが期待される。
		学校〔大学〕（就職担当）	・企業の採用意欲がおう盛で、来年度採用中止の案内文書が大幅に減っていることから、先行きに期待できる。
	学校〔大学〕（就職担当）	・大阪本社の企業では、精密機械、工作機械などのメーカー及び賃貸中心の不動産業の業績が順調のようである。これらの業種では次年度大卒者の採用数を増やす企業も多いため、先行きに期待している。	
変わらない	人材派遣会社（経営者）	・全業種、業態にわたって求人数の底離れがみえるが、需要拡大期に入るかどうかは4月の需要期における結果をみるまでは判断できない。	
	人材派遣会社（社員）	・金融機関の再編などにより一時的な需要は高まっているが、長期的に大きな売上増加は期待できない。	
	職業安定所（職員）	・パートの職を探している人は全体の8%であるが、求人数については33%を占めている。非常に求人と求職のマッチングが難しい状況であることから、今後も厳しい状況が続く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社 (編集者)	・自動車産業と情報産業は雇用に積極的で、製造業請負各社がその獲得にしのぎを削っているものの、流通業、特に百貨店などの回復が遅れているので、更なる雇用の増加には期待できない。
	悪くなる	-	-

8 . 中国 (地域別調査機関: (社) 中国地方総合研究センター)

(-: 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般レストラン(店 長)	・ B S E の影響があるものの、乗客数は前年比で100%を維持している。 ・ 販売を休止しているメイン商品のフィレストーキ解禁と消費者の食への安全の確立ができれば回復する。
	やや良くなる	百貨店(営業担当)	・ 競合他社のオープン、大規模なリニューアルが相次ぎ、マーケットのパイは変わらないものの、地域の消費マインドは高揚している。
		家電量販店(予算担 当)	・ 大型液晶テレビやプラズマテレビ、DVDレコーダーなどの売上が好調であることに加え、パソコンの売行きも上向き傾向にある。 ・ 今後シングル需要に期待が持てる。
		その他専門店[贈答 品](店員)	・ プライダル時期に入るため、店内も週末には若いカップルなどが引き出物の相談によく来ており、記念品を実際に見て購入を決めるようになってきている。
		その他飲食[ハンパー ガー](経営者)	・ B S E、鳥インフルエンザがこれ以上の広がりをみせなければ、昨年水準の売上が達成できる。
		都市型ホテル(スタッ フ)	・ 婚礼予約は減少しているが、一般宴会の予約状況が順調に推移している。
		タクシー運転手	・ 例年と異なり、乗客の話に先行き不安の話を全く聞かなくなってきた。
		通信会社(企画担当)	・ 接続サービス自体の競争は厳しいものの、これ以上の価格下げの方向はないと予想している。 ・ 通信のブロードバンド化は今年も順調に進行し、それに伴ってこれまでの接続サービスに対するV O I Pや動画コンテンツ等のオプション的サービスの利用者も増えていくため、客単価は上昇していく。
		競艇場(職員)	・ 4月に独自のレースをするため、乗客数、売上の向上が図れる。
	変わらない	商店街(代表者)	・ 売行きは低迷しており、客の財布のひもが非常に固い。 ・ 単価が安いだけでは絶対に売れず、客が商品を選択する上で、安い上に感性が合わなければならないとする欲求が非常に増しており、購買までのハードルが非常に高い。
百貨店(営業担当)		・ パーゲン期でも顧客の動きが悪いため、春物プロパー期になっても回復は期待できない。	
スーパー(店長)		・ 客の価格優先の買い回りは続き、販売量、客単価の下落は続く。 ・ B S E による豪州産、国産牛肉の値上がりや、鳥インフルエンザの影響が出る。	
スーパー(店長)		・ 消費マインドは非常に低く、買上点数も伸び悩んでいる。 ・ 消費者が食に対して敏感になっており、安全な商品提供に全力を挙げているが、消費者に認知されるに至らず、厳しい状況が続く。	
コンビニ(エリア担 当)		・ 競合するスーパーマーケットの長時間化は一段落しているものの、客の動きが競合他店やスーパーマーケットに向かっている状況であり、今後も苦戦を強いられるため、現状と変わらない。	
コンビニ(エリア担 当)		・ ここ数か月比較的堅調に客数、売上ともに推移していたが、現在伸び悩み感が感じられるため、当面現状並みで推移する。	
衣料品専門店(地域ブ ロック長)		・ 4月からの消費税総額表示の影響により、客の不信感が増すことが懸念される。	
衣料品専門店(販売促 進担当)		・ 店舗、メーカーとも春物の売れ筋商品を絞り切れない状況で、定番デザイン商品が苦戦しそうである。	
家電量販店(店長)	・ 中、小型テレビは不調であり、季節商品やパソコンは前年並みであるものの、大型テレビが好調であるため、全体的にはやや上向きの傾向にある。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（統括）	・ 2～3月は需要月であり、例年販売台数は増えるが、前年と比較するとコンパクトカーの販売に厳しい状況が予想される。
		乗用車販売店（統括）	・ 来客数の増加はあるが客単価が上昇しない。 ・ 客が安ければ良いという価値観をまだ振り払うまでには至っていない。
		乗用車販売店（営業担当）	・ 例年ならば3月実売期に向けた客の動きが1月ごろからみられるが、今年はそれもあまり見受けられない。
		その他専門店〔書籍〕（従業員）	・ 年始から芥川賞、直木賞の話題が盛り上がり、非常に好調に推移しており、しばらくこの状況が続くそうである。
		高級レストラン（スタッフ）	・ 2月ごろの予約状況が悪くなっており、好転するのは春先だと予想されるが、法人関係の利用が伸びてくるかどうかは、何とも言えない状況である。
		一般レストラン（店長）	・ BSEや鳥インフルエンザなど、飲食店にとっては仕入れを圧迫する要因になるため、今後の動向は予断を許さない。
		都市型ホテル（経営者）	・ BSEや鳥インフルエンザの影響で食材の高騰が懸念される。
		都市型ホテル（従業員）	・ 宴会部門の受注は、一部の企業、団体に活気がみられるが、レストラン部門の個人客は特定の顧客が多く、いまだに回復までは至らない。
		通信会社（営業担当）	・ 値下げ効果に依存しながらも、販売量の動きは順調に推移すると予測できる。
		その他レジャー施設〔温泉センター〕（営業企画担当）	・ 日帰り温泉部門は来客数に先月同様若干の好転はみられるものの、客単価の伸び悩みが大きく安定的ではないため、この先はまだ不安要因も多い。 ・ 温泉ホテル部門も日祝日の前日の予約状況は例年どおりだが、シーズンであるにもかかわらず平日予約の状況は若干悪く、てこ入れを検討している。
		設計事務所（職員）	・ 20戸程度の一戸建住宅団地が、建設完了前に既に完売となっており、個人住宅向け関連の景気は依然としてやや良い状態が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・ 来場者数の回復が依然みられず、受注金額が抑えられた状況が2、3か月は続く。
		住宅販売会社（経理担当）	・ 例年契約数は1月中旬から回復してきているが、今年は伸びがみられない。 ・ 予約を入れてキャンセルするケースが増えており、顧客の購入意欲が冷え込んでいる。
	やや悪くなる	百貨店（購買担当）	・ 来月は隣接地域の北九州市に大型百貨店が進出することに加え、3月は福岡市天神地区に大きな店がリニューアル改装するため、かなり危機感が強まってきている。 ・ 北九州、福岡とも1時間足らずで行けるため、客足は必ずそちらに向いていくことを考えると、当地区での購買はかなり厳しい状況が続く。 ・ 昨年はヤング、ミセス関係はかなり動きを示していたが、既に春物が投入されたものの、新たなトレンドも考えられず、客の動きも鈍いため、悪い状況が強まってくる。
		百貨店（電算担当）	・ 4月からの消費税総額表示によって、価額が上昇したような感じを客に与えるため、客の購買意欲に影響する。
		スーパー（店長）	・ 鳥インフルエンザの影響で、消費者の安全志向の高まりから精肉部門の販売量が伸び悩む。
		スーパー（管理担当）	・ 消費税総額表示の影響が現れるため、販売量が若干低下する。
		スーパー（総務担当）	・ BSE問題による米国産牛肉の輸入禁止で牛肉の価格が上昇する一方、鳥インフルエンザで鶏肉が敬遠され、売上が10%近く落ち込んでおり、豚肉や加工肉だけではカバーし切れないため、売上がまだまだ低下する。
		スーパー（店員）	・ 4月からの総額表示への変更により、余分な費用もかかる上に、店頭売価が上がると値上げしたように見えるため、競合店が価格据置きをするという話もあり、厳しい状況が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・ 酒類免許を申請した競合店に免許が下りており、今後酒だけではなく、酒と一緒に買う商品にも影響が出てくる。
		一般レストラン（経営者）	・ BSEや鳥インフルエンザなど食肉関係の問題がまだ当分解決しないため、売上はやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（経営者）	・鳥インフルエンザの影響で申込数の多い東南アジア向けの旅行客数が減少している。 ・国内向け旅行も単価が下がり、1～3月の受注売上が例年の25%減と大幅に減少しそうである。
		タクシー運転手	・昼間の客の動きはさほど悪くないが、夜の動きが悪いので、2月も売上が悪くなる。
		通信会社（通信事業担当）	・同業他社のサービス開始により競争が激化する。先方は大々的なキャンペーンを展開しており、しばらくは厳しい状況になりそうである。
		スーパー（店長）	・消費税総額表示の影響で景気が悪くなる。
企業 動向 関連	悪くなる	-	-
	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般機械器具製造業（経営企画担当）	・同業他社と共同で国内向けに開発した新商品の前評判が高く、今年の春から出荷に伴い売上の伸びが期待できる。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・引き続き新規案件も入ってきているので、好調に推移する。
		不動産業（経営者）	・金融機関が貸出しの制約をやや緩和してきており、企業関係の転勤、事務所や店舗の動きに伴う不動産物件の動きが活発になる。
	変わらない	食料品製造業（総務担当）	・BSE、鳥インフルエンザの影響があっても、魚肉製品へのシフトは感じられず、不正表示などによる消費者安全志向の強化で、売上増加も見込めない。
		化学工業（総務担当）	・経費節減や業務の合理化、効率化等の社内体制の整備により、少し利益が出るようになったものの、収益面での景気回復は厳しい。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・得意先の業績は今後も好調な状況が継続する見込みであり、生産量も現在の水準が続く見込みである。
		鉄鋼業（総務担当）	・中国のインフラ整備などアジア方面へのおう盛な鋼材需要は引き続き継続すると思われ、現状の操業度は変わらないものと予想している。
		電気機械器具製造業（広報担当）	・液晶製品は値段が回復傾向にあり、事業も増えているが、価格競争が厳しくなっており、総じて将来的に変化はない。
通信業（営業企画担当）		・光ケーブルそのものの普及度もまだ十分でなく、サービスメニューの追加拡大以前に設備建設負担が先行するため、し烈な顧客獲得競争の問題も含めて、厳しい経営環境は続く。	
通信業（社員）		・次年度売上目標の策定期間であり、受注に向けて営業展開中であるが、各社とも予算面で厳しいものがあり、即受注にはなかなか結び付かないのが現状であり、営業を繰り返せざるを得ない。	
金融業（営業担当）		・企業間の体力差が広がってきている。 ・仕事の全体量が少なく、体力のない企業のダンピング傾向が続いており、良くなる状況ではない。	
金融業（業界情報担当）		・地場の大手自動車メーカーで新型車の量産本格化により、当面の操業は高水準を維持するとみられるが、円高懸念と北米市場での販売が計画に比べて伸び悩んでおり、景況感は横ばいである。	
やや悪くなる	食料品製造業（総務担当）	・BSE、鳥インフルエンザ問題のため、販売量、受注量の先行きが見えない。	
	非鉄金属製造業（経理担当）	・価格下落で厳しい製品と、その一方で輸入品の値上げの影響で国内シフトが起こり、代替需要が発生してきている製品があるが、総じて厳しい。	
	広告代理店（営業担当）	・山口県で発生した鳥インフルエンザ問題で、現在出荷停止状態になっている鶏肉の出荷が今後解禁になったとしても、取引先からの注文量が戻る見込みがなく、この風評被害が収まるには最低3～6か月は必要となる。	
	コピーサービス業（管理担当）	・現在期末特需の獲得が最重要項目であり、顧客情報の収集を行っているものの、前年と比べて期待は薄い。特に大手企業等の外注費削減、社内処理体制への方向転換に変わりはない。	
雇用 関連	悪くなる	-	-
	良くなる	民間職業紹介機関（職員）	・特に製造業を中心に求人依頼が増加傾向にあり、人材を紹介してもまだ足りないという声も聞く。
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・新規オープン予定のホテルからパート求人を中心に約100名の募集予定があることに加えて、4月開所予定の老人ホームからもまとまった求人がある見込みである。
雇 用 関 連	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・人材派遣の需要は引き続きあるが、求められる職種の幅が広く、要求も高度化しており、人材の供給が不十分に終わっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（支店長）	・ 総量的に雇用が創出され、増える見込みは期待できないが、リストラによる過度の人員減のリバウンドとして、採用需要は増える。ただし、高い技能や経験を有したものに偏る傾向もある。
		職業安定所（職員）	・ 大量離職が一段落したため、しばらくは求人求職とも大きな動きはなく横ばいで推移する。
		職業安定所（職員）	・ 求人は増加しつつあるが、一方でリストラ予定の企業もあることから、雇用状況の改善はまだ先になる。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・ 各企業の採用に関する慎重姿勢は依然として変わらず、好転の兆しは感じられない。むしろ長引く不況を原因とした新規採用の見送りや、採用人数の縮小案など、各事業所の採用担当者からは更なる雇用の引締めを行う姿勢などが感じられる。
	やや悪くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・ 現在の求人は離職による補充としての求人が多いため、今後求人が続いたとしても就業者数の増加につながることはなく、離職が一定水準で止まった段階で求人も止まる可能性がある。
	悪くなる	-	-

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	スーパー（店長）	・ 今年 は 天候 に 恵まれ、春の訪れも早そうなので売上の増加が期待できる。
		衣料品専門店（経営者）	・ 3月上旬にかけて売上が落ち込む時期ではあるが、客単価が上昇していることに加え、客の商品を見る目が今までと比べて変化しており、消費者心理が明るくなったように感じる。
		家電量販店（店長）	・ デジタル関連商品の動きが、今後も底堅く推移する。
		一般レストラン（経営者）	・ B S E や 鳥インフルエンザなどマイナス要因はあるが、他の素材や季節、健康などを意識した様々なメニューを提供することにより、客を引き寄せられる。
		観光型旅館（経営者）	・ 都市部での景気回復が地方に波及してくることに加え、当地では「町並博」というイベントが控えており、やや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・ 春の行楽シーズンを迎える時期でもあり、鳥インフルエンザがまん延しなければ、昨年のSARS等で旅行を取りやめた人が今年は旅行に出掛ける。
		観光名所（経営者）	・ 昨年は統一地方選挙で観光客の動きが鈍かったが、今年は通常の動きに戻る。
	ゴルフ場（従業員）	・ 予約の問い合わせや実際の予約状況も増加している。	
	住宅販売会社（従業員）	・ 住宅ローン減税の延長により、年内に入居を希望している客の商談が3月、4月にかけてまとまる。	
	変わらない	商店街（代表者）	・ 昨年暮れの空き店舗調査で、空き店舗率が更に1ポイント上昇している。こうした状況下では、景気が良くなるとは考えられない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・ 市場の競り単価がかなり下落しているため、同業者も売上が減少している。同様にスーパーや大規模店の販売単価もかなり下落しており、これから春にかけて需要の時期を迎えるが、一度下がった単価は回復しにくく、売上が増加する可能性は少ない。
		百貨店（売場主任）	・ 販売量に変化はないが、客単価が若干上昇している。このように少し明るい兆しはあるが、全体の動向は変わらない。
百貨店（総務担当）		・ ギフトを中心にどうしても必要な商品は売れているが、自分自身の必要品の購入に対する非常にシビアな購買行動に変化はみられない。このため春物の販売も苦戦している。	
百貨店（営業担当）		・ クリアランスは好調であったが、買上点数が少なく、1人当たりの売上額は増加していない。ブランド商品群は、全体では前年並みを維持しているが、ブランドによりばらつきがある。	
	スーパー（企画担当）	・ B S E や 鳥インフルエンザ問題により、消費者は食品の安全性に敏感になっている。安心・安全が確保できないと、落ち込んだ生鮮食品の回復は難しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（財務担当）	・ B S E や鳥インフルエンザなど食品の安全に関する問題が多く発生しており、食品スーパーとしては先行き不安である。
		スーパー（店長）	・ 消費税が総額表示に統一されるが、消費者には価格上昇のように感じられ、売行きが悪くなる恐れがある。
		コンビニ（店長）	・ 前年から客数、単価ともにやや下落しており、販売量が落ち込んでいる。単価の安い即席ラーメンやパンは多少伸びているが、こうした下落傾向は続くと見ている。
		衣料品専門店（経営者）	・ 既存店の来客数、客単価ともに上昇せず、売上は前年割れが続いており、回復する兆しがみえない。
		家電量販店（営業担当）	・ 来客数は多少増加してきたが、固定客に比べ新規客の割合が少ないことから、需要の拡大は難しい。また購買意欲の目安となる小物商品にも変化が少ない。
		乗用車販売店（従業員）	・ 新型車、モデルチェンジの発売の予定がなく、売上を増加させる材料が見当たらない。
	やや悪くなる	都市型ホテル（経営者）	・ 予約状況は、ほとんど変化がない。一般的に景気が回復したと言われてはいるが、実感がない。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・ 規制緩和で新規の酒販免許がどんどん発行されており、次第にその影響が出てくる。このまま、何も対策を打たなければ、販売量は落ち込んでいく。
		一般小売店〔乾物〕（店員）	・ 新聞等で景気が回復していると言われてはいるが、全く実感がない。一部の輸出企業は業績が良いようであるが、末端までその影響を及ぼしているとは思えない。
	悪くなる	乗用車販売店（営業担当）	・ 1月の販売台数は前年を上回ったが、これは商品力によるものであり、景気が回復したことによるものではない。 ・ 来客数は、前年を下回って推移している。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・ 最近では珍しく、1年分の受注を受けたが、1社だけでなく複数の会社からの発注であり、また受注部門も2部門に及んでいる。
		不動産業（経営者）	・ 第二次ベビーブーマーの賃貸契約、分譲マンションの購入が増加している。今後、こうした動きが更に強まると思われる。
		広告代理店（経営者）	・ J R 駅前のシンボルタワーのオープンイベントや周辺施設で開催されるイベント効果により、やや良くなる。
	変わらない	一般機械器具製造業（経理担当）	・ 大・中型クレーンの稼働率は高いものの、リース料金は下落傾向にあり、機械の老朽化によるやむを得ない台替需要の域は出ていない。一方、小型クレーンの排ガス規制による特需は、首都圏では一段落した感があるが、中部・関西地区へ広がりをみせており、この傾向はまだ続く。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・ 2000年6月の循環型社会形成推進基本法の公布から約4年が経過し、業者の淘汰も進み、景気を回復させるほどの動きではないが、ユーザーの動きもやや活発になりつつある。
		輸送業（支店長）	・ ディーゼル車の排ガス規制による車両台替で資金繰りを圧迫され、中小規模の業者が廃業した。このように大、中小の企業間格差はますます広がると思われるが、当面、景況感に変わりはない。
		金融業（融資担当）	・ 各企業とも、減収傾向に歯止めがかかっていない。リストラを進めているが、限界に近づきつつある。
	やや悪くなる		
	悪くなる	食料品製造業（従業員）	・ B S E 、鳥インフルエンザの問題が早く解決され、輸入解禁にならないと、どうすることもできない状態になっている。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（支店長）	・ リストラの一段落から新規採用が増えており、先行きは少し明るい。
		民間職業紹介機関（所長）	・ 中堅企業の新規求人件数に増加が見込まれる。
	変わらない	職業安定所（職員）	・ 新規求職者数は、4か月連続して増加したが、年度末に向けて、一部の企業で雇用調整の動きがみられる。
		職業安定所（職員）	・ 新規求職者は2か月連続で減少したが、有効求職者は前年比増が継続しており、求職活動期間が長期化する傾向にある。求人内容も、派遣や請負の求人、期限付きの求人が増加しており、雇用面での厳しさは続いている。
	やや悪くなる	-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	-	-

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・新幹線開業を視野に入れた商圈の変化が、景気上昇への刺激になればと期待している。
		百貨店（売場主任）	・来月上旬同業の百貨店がオープンし、オープン直前は買い控え、オープン後は多くの来街者が見込めるため、それについてはやや苦戦をされると思われるが、町全体は活気が出るため、全体的には景気が良くなる。
		百貨店（営業担当）	・春先に向けて、新店オープンなど一時的な効果が期待される。また、顧客回遊ルートの変化で来店客数の増加を予想している。
		スーパー（総務担当）	・気温の変化、モチベーション等に準じて売上が昨年より伸びており、客の購買意欲は少しずつ伸びてきている。
		スーパー（経理担当）	・BSE、鳥インフルエンザなどで豚肉の動きがいいが、今後オーストラリア産の牛肉や豚肉は品薄や価格高騰が懸念される。また、あと2か月に迫った総額表示でも消費者の価格に対する値上感をよび、一時的な買い控えが懸念される。
		衣料品専門店（経営者）	・今月は人の動きがやや活発になってきた。相変わらず高額商品は期待できないが、商品の精度を上げ、積極的に雰囲気盛り上げることで売上也回復する。
		衣料品専門店（総務担当）	・宝石、時計などの高級品の買い求めが続いている。店頭での高級品に対する感触が良い。
		乗用車販売店（従業員）	・トラックの新車販売台数が少しずつ増えている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・来店客が若干持ち直しつつある。
		通信会社（業務担当）	・低価格商品の品ぞろえは少ないものの、次世代携帯電話のエリア拡大と高機能商品発売もあり、新規契約は増加する。
	通信会社（営業担当）	・客の問い合わせ等の数が増えてきたため、やや良くなる。	
	設計事務所（所長）	・官公庁の設計委託が順調に出ている。民間も引き合いが多く、仕事量が増えている。	
	住宅販売会社（従業員）	・業績が好転している企業の社員については、住宅取得意欲が向上する。	
	変わらない	商店街（代表者）	・多少景気が上向き気配はみえているが、末端の特に地方の小売店段階では、オーバーストアはますますひどくなるようで、1店当たりの売上高は低迷せざるを得ない。またその中で新しい商品、新しい売り方を目指し努力している店は多少伸びも出てくる。
		商店街（代表者）	・近隣に大型百貨店がオープンするため客の流れが変わることが懸念される。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・ある程度の底打ち感があるが、プラスになる購買心をそそぐ材料的なものが乏しいので、ここ半年は変わらない。
		百貨店（営業担当）	・総額表示の問題等があり、非常に先行きが不透明である。
		百貨店（売場担当）	・紳士服は回復したが婦人服はここ2、3か月低迷しており、主力の部分が動いていない。今後は若干不透明な部分が残っている。
		スーパー（店長）	・3か月先は、食品等に関して良い先行きは望めない。単価自体はそう伸びておらず、現状と同じである。
		スーパー（店長）	・BSEや鳥インフルエンザの問題もあり、生鮮食料品が伸び悩んでいる。この傾向は今後も続く。
スーパー（店長）		・総額表示の影響があり、消費は悪くなる。	
スーパー（店長）		・総額表示に変わるため、消費者にとっては値上げしたように見えることが懸念される。消費低迷は今後も続く。	
スーパー（企画担当）		・製造業を中心とした景気回復の兆しはあるものの、米国产牛や鶏肉からの客離れの回復は難しい。	
コンビニ（エリア担当）	・コンビニエンスストア業界は厳しい状態が続いているにもかかわらず、競合店の出店が相次いでおり、少しばかりの景気の回復があったとしても、店舗の収益を確保するに至らない。		
コンビニ（エリア担当）	・コンビニエンスストアに限らず、あらゆる業種においても施策が一律になる傾向が強い。斬新なアイデア・施策等魅力がなければ変わらないという傾向は今後も続く。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・新しい形の車の新商品が各社勢ぞろいして、その面で客の関心度は高まっているように思えるが、依然として財布のひもは固い。
		その他専門店〔医薬品〕（従業員）	・商品単価の下落は止まったが、なかなか上がる気配がない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・状況等を見てもさほど変化はない。またSARSやBSEの影響も特でない。
		旅行代理店（従業員）	・アジアの客が多いので、鳥インフルエンザの影響がもう少し響いてくる。
		タクシー運転手	・今後もタクシー利用の客が増えるとは思えないし、ホテル利用の客自体もあまり期待できない。
		通信会社（営業担当）	・現在が非常に悪いので、これ以上悪くなることはない。
		通信会社（管理担当）	・まだ雇用情勢も悪く、4月の春闘もベースダウンという声が聞こえてくるので良くなるとは思えない。
		通信会社（営業担当）	・次世代携帯電話の新機種が発売になるため、来客数は増加すると思われる。しかし、売上は価格次第だと予想される。
		観光名所（職員）	・景気が良くなっているとは実感できていないが、ここ何か月の来客数が前年を下回ることはない。今後もこの傾向が続く。家計も少しずつ良くなる。
		ゴルフ場（従業員）	・2、3月の予約状況は、全年よりやや客足が鈍いが、問い合わせは多い。トータルでは前年並みである。
		住宅販売会社（従業員）	・戸建て住宅の建築が上向かない。客の雇用不安、年収ダウンが影響しており、雇用関係の改善が望まれる。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・郊外店の出店が激しい。特にロードサイドの飲食店や大型商業施設が郊外にできているため、商店街での商売を辞める人が増え、空き店舗が増えている。
		商店街（代表者）	・BSE、鳥インフルエンザの影響が出る。
		百貨店（売場主任）	・客の買い方が非常にシビアになっている。粗品、頒布等の催しの来店数は減っていないが、売上、販売数量は減っている。この傾向は続く。
		百貨店（営業担当）	・3月に大型アウトレットモールや大型百貨店がオープンするため、今後はさらに厳しくなる。
		百貨店（営業企画担当）	・福岡一極集中が加速し、さらに大型アウトレットモールのオープンもあるため、客数の減少傾向が続く。
		スーパー（店長）	・消費税総額表示により、客に高いイメージを与えてしまうため、4月の売上が心配である。また、3月にまとめ買いが起こり、4月はその反動で売上が悪くことも懸念される。
		コンビニ（経営者）	・近いうちに競合店が出店するという話を聞いており、そうなると一層競争が厳しくなり、売上が分散してしまう。
		住関連専門店（経営者）	・2～3月にかけて従来では婚礼家具等の動きがあるが、今月の動きを見ると、家具についての見通しは、なかなか厳しいようである。家具業界の景気回復は厳しい。
悪くなる	観光型ホテル（スタッフ）	・第3四半期（10～12月）までは目標・前年比をクリアしたが、第4四半期（1～3月）の予測は大幅に落ち込む。特に宿泊・個人催事（婚礼）が厳しい。	
	旅行代理店（業務担当）	・3月以降の受注が、イラク戦争が影響した昨年の数値よりも下回っている。さらに国内旅行も昨年の数値を上回るのがやっとで、いままでの勢いがなくなっている。	
	タクシー運転手	・男性客から、自分の小遣いが減らされるという話を良く聞く。明るい材料が何もなく、人の動きが全然ない。	
	スーパー（店員）	・年配の客が多くなってきた。単価は少々高いが、販売量が少ないため、売上は伸びない。	
企業動向関連	良くなる やや良くなる	高級レストラン（経営者）	・昨年の11月くらいより悪くなる傾向が急激にひどくなり、春の予約もほとんど入っていない。
		家具製造業（従業員）	・現在、把握している物件の情報から判断すると、2～3か月先はかなり忙しくなりそうである。ただ、受注単価の下落はまだまだ続いており、利益的にはかなり厳しい。
		精密機械器具製造業（経営者）	・原料の受注関係から考えて、まだまだ増えるという計画予想を客から聞いている。協力会社、又は下請が負荷オーバーで、協力関係も変わってきた。
		建設業（総務担当）	・新幹線の開業を間近にひかえ、鹿児島中央駅近辺での立体駐車場の建設計画、店舗の改装等の動きがあり、受注に結び付きそうである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	輸送業（従業員）	・今月の受注量、販売量、売上の数字があまりにも悪い。そのためメーカーはキャンペーンを行ったり新規商品を投入する等して、商品全体をアピールしている。今月よりはやや良くなる。
		輸送業（従業員）	・自社の取扱量の回復や同業他社の業績が好調である。
		農林水産業（経営者）	・鳥インフルエンザやBSEの影響で、加工原料が不足している。このまま国内での鳥インフルエンザの発生がなければ、国内需要の高まりが期待できる。
		農林水産業（従業者）	・地産地消に需要があるが、価格の問題等で現状並みに推移する。
		農林水産業（従業者）	・BSE、鳥インフルエンザの発生により、引きずられるように国内産野菜への見直し・期待感が高まるとの見方もあるが、依然不透明感が強い。
		一般機械器具製造業（経営者）	・仕事量はある程度確保できるが、単価がなかなか上がらず、資金繰りが大変になっている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体大手の動向は、全体としての動きはしっかりとしている。しかし3か月先はいい企業と悪い企業の差がつくと思われる。こういった二極化の動きが今月からみられる。
		輸送業（総務担当）	・半導体、食品、合成樹脂、食料品等はほとんど変化がない。しばらくはこのままで推移する。
		通信業（職員）	・利益の少ない工事を数件受注しており、その対応に人員が必要となるため、営業活動が制限される。
		広告代理店（従業員）	・業界全体として、前年比1けた増で安定している。
広告代理店（従業員）	・レギュラー広告の減少を補うことができず、相変わらず厳しい状況が続いている。		
経営コンサルタント	・当面新しい動きが出てくると思えない。		
やや悪くなる		鉄鋼業（経営者）	・年明け後原料価格が急騰し、なお続伸中である。副原料、副資材についても値上がりが見込まれており、大幅なコストアップが予想される。他方、製品価格は内需が低迷する中で値上げのスピードが遅く、先行きは厳しくなる。
		不動産業（従業員）	・オフィスの賃貸料や土地の売買価格の回復めどが立たない状況が続いている。
悪くなる		繊維工業（営業）	・海外生産の比率が高すぎる。海外移転はまだまだ続くと思われるし、国内生産のメリットであったクイックレスポンスも中国等の海外で可能になったと聞いている。厳しい状況が続く。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・大型外航船が建造されることによって資材単価、特に鋼材が値上がりし、また従業員（造船マン）がそちらに流れている。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・海外での生産が増大しているの、悪くなる。
		経営コンサルタント	・酒類マーケットでは、飲食店を始め酒の量が減っており、消費者の飲む回数も減っている。依然として家庭の消費状況は厳しい。
雇用関連	良くなる	人材派遣会社（社員）	・年度末に向け求人の件数は増える。また派遣法の解禁や、法律の規制緩和を受け、人材の流動化や新規参入企業が増えるため、雇用が増え、収入を得る人が増える。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・最近のオーダーは長期受注が多い。社員の補充を短期に乗り越えるということではなく、安定した長い期間、いわゆる雇用者としての派遣を長期で考えている。雇用の安定の傾向が出てきた。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人数が増えており、やや良くなる。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数が2か月連続で前年比減、新規求人は増加傾向である。また企業整理については落ち着いてきた。
		職業安定所（職員）	・有効求職者数が減少し、有効求人数が増加する傾向が15年1月より継続しており、雇用回復力が感じられる。
		職業安定所（職員）	・製造業においてデジタルカメラや半導体等生産が好調であり、プラント工事や郊外複合商業施設の建設や大型の設備投資が実施されている。景気は良くなる。
		民間職業紹介機関（支店長）	・ユーザーの年度末繁忙期需要については大きな変化はないが、新年度の受注案件が年明けと共に入り始めた。少人数の派遣需要に加えて、ある程度まとまった人数の商談が昨年よりも若干早めに発生している。景気は良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	職業安定所（職員）	・生産面では、製造業の一部に堅調な動きもみられるが、業種によりばらつきがある。景気回復のペースは、全体として、横ばいの状態を脱しきれず、今一つ力強さが感じられない。
		民間職業紹介機関（職員）	・製造業を含めメーカー、流通サービスすべてに対して求人数が増えており、景気が徐々に上向いていることがうかがわれる。しかし、求職者数のバランスがうまく取れておらず、需要と供給のミスマッチを感じる。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・新規求人案件が、前年より少ない。
	悪くなる	-	-

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる		
	やや良くなる	コンビニ（経営者）	・購買の際、カウンターに置かれている商品も、更に加えて購入する例が増えている。
		観光型ホテル（商品企画担当）	・3月の稼働率は前年同月比で6、7ポイント上がる見込みで推移している。
	住宅販売会社（従業員）	・全国的には一年延長された住宅ローン減税の影響で年内の建築を希望する動きが活発であるのに対し、県内での動きはまだ鈍い。しかし、今後は少しずつ動きが出てくると予想される。	
変わらない		スーパー（経営者）	・販売件数は前年を上回っているが、客単価の下落が依然として続いており、競合店との競争等もあることから、今後もしばらくはこのような状況が続く。
		スーパー（企画担当）	・BSE、鳥インフルエンザ等、食に対する不安等もあり、部門によって動きが悪いところと好調のところとに分かれているので、食に対する不安がなくなる限り、しばらくはこの状況が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・BSE、鳥インフルエンザ等による食肉への不信感はぬぐえないが、その影響でその他の食材の売上が伸びてくるので、総体的な落ち込みは少ないと予想される。
		家電量販店（副店長）	・購買の際、競合店と比較する傾向が強くなり、依然として客は購買に対して敏感である。
		乗用車販売店（総務担当）	・客のニーズに合う商品に乏しい。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・観光客が好調であることで現状維持の状態が続いてはいるが中心商店街は少しずつだが確実に衰退してきている。専門店の減少や若い人の往来が減っている。観光客を対象とする土産品店の店舗数や規模が拡大し、競合しており、しかし並んでいる商品は同様の品揃いであることから、その中で価格競争が激化している。
		旅行代理店（経営者）	・鳥インフルエンザ等による近場の海外旅行の不振はしばらく続き、県内景気も旅行社業界から見ると若干まだ模様に移して行く。
		観光名所（職員）	・自衛隊のイラク派遣によるテロ発生の可能性、SARS、鳥インフルエンザの発生等、旅行環境は、ここ2、3か月間は変化しない。それに伴い県内への入域観光客も前年同月比で減少傾向が続く。
		ゴルフ場（経営者）	・客単価を下げれば集客すれば、前年同月比で来客数、売上額ともに伸ばすことは可能である。しかし、その分、同業他社に影響が出てくる。この構図は過去10年間変わっていない。
やや悪くなる		コンビニ（エリア担当）	・BSE、鳥インフルエンザ等の問題が長引けば、売上に確実に影響してくる。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・今年に入り、もう既に同業者の閉店があり、周辺店の厳しいという話もよく聞かれる。 ・都心以外の周辺店舗の閉店が目立ってきており、大型店の影響から厳しい状況になっている。
悪くなる		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・4月からの総額表示に備え、メニューの改正をしている中で、BSE、SARS、特に鳥インフルエンザの影響は大きく、食材の値段の高騰が追い打ちをかけている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	通信業（従業員）	・弊社が設立時よりこだわり続けているオープン・ソースに関して、色々な形で取り上げていただけるようになってきた。講演依頼なども増えており、業界はもとより国家レベルでオープン・ソースへの取組が本格化するものと期待している。
	変わらない	建設業（経営者）	・問い合わせ及び成約件数は増えたが、単価は下落し、総金額は横ばいであり、先が読めない状況である。
		輸送業（総務担当）	・引っ越し、入学シーズンで県内外の荷動きが活発になる時期だが、就職難の影響等で去年並か、それ以下になる。 ・また、牛肉の輸入制限や禁止等で、2月以降の荷動きが懸念される。
やや悪くなる	不動産業（支店長）	・景気が好転する要素がなかなか見当たらない。	
雇用 関連	悪くなる	-	-
	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・引き続き、求人数の増加傾向がみられるのと同時に、求職者の動きも活発になってきており、マッチング率の向上がみられる。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・現在、観光関連の仕事が発生したり、また単発の派遣依頼もあるものの、契約終了の申出も出てきているため、状況としてはあまり変わらない。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数は2,687人で前年同月比12.1%増加している。これは、求人増に伴うパートタイム求職者25.5%増及び県外希望の求職者11.4%増が主な要因となっている。特に事業主都合離職者及び在職者が増加傾向にある。 ・新規常用求職者2,454人の年齢構成をみると、30歳以下の若年者が41.8%を占め、前年同月比で4.3%増となっている。 ・45歳以上の中高年齢者は4.0%増となっており、各年齢層で求職者が滞留し長期化している。このようなことから、雇用の面でまだまだ厳しい状況が続く。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（営業担当）	・年が明け、全般的に求人掲載依頼の数が減少している。特に飲食関連店舗のホールスタッフ、アルバイトで20歳以上の求人を出すと、問い合わせもなく、高校生可にすると、10～15名の応募があるとのことで、成人の募集が厳しくなっている。
学校〔大学〕（就職担当）		・ほとんどの企業の決算月は3月であり、県内企業は設備投資の低迷で観光関連以外は、厳しい状況に移行し、求人状況にも影響する。	
悪くなる	-	-	